2019年度

科目等履修生・聴講生　講義一覧

【授業時間】

①限　8:50～10:20　②限　10:30～12:00　③限　12:50～14:20　④限14:30～16:00　⑤限　16:10～17:40

【科目一覧】

No.	開講期	2019開講科目名称	教員名	曜日・時限	受講可否	
					科目等履修生	聴講生
1	前学期	企業論	平野　真	月1	○	○
2	前学期	経営学入門	加藤　好雄	月2	○	○
3	前学期	保健体育	芦田　信之	月2	○	○
4	前学期	地域イノベーション	平野　真	月2	○	○
5	前学期	人的資源管理論	鄭　年皓	月3	○	○
6	前学期	教育学	江上　直樹	月4	○	○
7	前学期	マーケティング	加藤　好雄	月4	○	○
8	前学期	生物学	芦田　信之	月5	○	○
9	前学期	観光総論	中尾　誠二	月5	○	○
10	前学期	環境学	中尾誠二・矢口芳生・塩見直紀	火1	○	○
11	前学期	経営情報システム論	神谷　達夫	火1	○	○
12	前学期	流通システム論	佐藤　充	火2	○	○
13	前学期	非営利組織論	杉岡　秀紀	火2	○	○
14	前学期	情報処理論Ⅰ	山田　篤	火5	○	○
15	前学期	工業簿記	井上　直樹	火5	○	×
16	前学期	持続可能な社会論	矢口　芳生	水1	○	×
17	前学期	農業経営論	塩見　直紀	水1	○	○
18	前学期	簿記論Ⅰ	井上　直樹	水2	○	×
19	前学期	地域資源論	谷口　知弘	水2	○	○
20	前学期	地方自治論	杉岡　秀紀	水2	○	○
21	前学期	財務諸表論	井上　直樹	水3	○	×
22	前学期	中小企業論	佐藤　充	水3	○	○
23	前学期	多文化共生論	渋谷　節子・大谷　杏	水4	○	○
24	前学期	グローカル特別講義Ⅰ（北近畿の地域創生Ⅰ）	杉岡　秀紀	水4	○	○
25	前学期	グローカル特別講義Ⅰ（福祉行財政と福祉計画）	岡本　悦司	金1	○	○
26	前学期	政治学	富野　暉一郎	金2	○	○

2019年度

科目等履修生・聴講生　講義一覧

【授業時間】

①限　8:50～10:20　②限　10:30～12:00　③限　12:50～14:20　④限14:30～16:00　⑤限　16:10～17:40

【科目一覧】

No.	開講期	2019開講科目名称	教員名	曜日・時限	受講可否	
					科目等履修生	聴講生
27	後学期	経営戦略論	平野　真	月1	○	○
28	後学期	グローバルビジネス	平野　真	月2	○	○
29	後学期	経営組織論	鄭　年皓	月3	○	○
30	後学期	グリーンツーリズム論	中尾　誠二	月3	○	○
31	後学期	交流観光政策論	中尾　誠二	月5	○	○
32	後学期	診療情報管理論特論	星　雅丈	月5	×	○
33	後学期	地域協働論	杉岡　秀紀	火1	○	○
34	後学期	地域産業論	佐藤　充	火2	○	○
35	後学期	グローカル特別講義Ⅳ（北近畿の地域創生Ⅱ）	杉岡　秀紀	火3	○	○
36	後学期	情報処理論Ⅱ	山田　篤	火5	○	○
37	後学期	地域農業システム論	矢口　芳生	水1	○	×
38	後学期	コミュニティビジネス	塩見　直紀	水1	○	○
39	後学期	簿記論Ⅱ	井上　直樹	水2	○	×
40	後学期	社会調査論	佐藤　充	水2	○	○
41	後学期	観光まちづくり論	谷口　知弘	水2	○	○
42	後学期	交流居住論	塩見　直紀	水3	○	○
43	後学期	公共経営入門	杉岡　秀紀	水4	○	○
44	後学期	グローカル特別講義Ⅱ（京都北部のまちづくり）	谷口　知弘	水4	○	○
45	後学期	経営工学概論	鄭　年皓	木1	○	○
46	後学期	原価計算論	井上　直樹	金2	○	×
47	後学期	グローカル特別講義Ⅱ（会計専門職を考える）	井上　直樹・三好ゆう	金3	○	×
48	後学期	数学応用	神谷　達夫	金3	○	×
49	後学期	ソーシャルデザイン	谷口　知弘	金3	○	○
50	後学期	行政学	富野　暉一郎	金4	○	○

科目名称				担当教員	
企業論				平野 真	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

企業とはどのような考えのもとに、どのように運営されているのでしょうか？本科目では、現代の企業経営を理解するため、1）経営哲学、2）事業分野・事業内容、3）事業規模と発展段階、4）産業構造や社会での位置付け、という４つの観点から、分析を行います。より具体的には、1）事業の発展性と継続性のバランスの取り方、2）事業内容に依存した経営手法の違い、3）事業の規模や発展段階に応じた組織運営の違い、4）産業構造や地域社会の中で果たす役割などを学習し、これらの因子の違いから実際の企業がどのように運営されているか理解することを目的とします。前半の授業では理論的な学習を行い、ケース課題の分析を通じて理解を深めます。後半の授業では現実の企業をチームで調査・分析することを通じて、さらに企業への理解力・分析力を養います。なお授業の進め方や評価手法については、多少の変更を行うことがあります。

授業の到達目標

1)経営哲学の違いにより現実の企業経営がどのように影響を受けるかについて説明し、具体的な事例を挙げることができる。2)事業分野や事業内容の違いによる企業経営の在り方の違いを例をあげて説明できる、3）事業の規模や発展段階の違いによる組織運営の違いを説明できる、4）産業構造や社会の中で果たす役割と企業経営の最適性について、自分の考えを述べられる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション、第一部企業経営の基礎（1）企業とは？
第 2 回	第一部企業経営の基礎（2）経営の基礎：分業と分配
第 3 回	第一部企業経営の基礎（3）経営哲学：発展か継続か、ベンチャー型と老舗型
第 4 回	第一部企業経営の基礎（4）事業分野と事業内容：産業特質と製品寿命
第 5 回	第一部企業経営の基礎（5）事業規模と事業の発展：企業の成長と課題
第 6 回	第一部企業経営の基礎（6）価値の体系と産業構造：垂直統合と水平分業、
第 7 回	第一部企業経営の基礎（7）産業構造の変容：製造業からサービス業へ、
第 8 回	第一部企業経営の基礎（8）地域社会と企業：産業集積、協働、企業文化
第 9 回	第一部の復習とまとめ
第 10 回	中間テストによる知識確認
第 11 回	第二部企業分析　WSチーム分けとテーマの選択
第 12 回	第二部企業分析　WS作業と発表準備
第 13 回	第二部企業分析　WS発表会１
第 14 回	第二部企業分析　WS発表会２
第 15 回	総復習とまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
前半は毎回、次回の予習を兼ねた事例分析などを宿題として課すので、これを自分の頭で考え分析することが重要である。後半は、自分自身でテーマを持って学習を進める。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で特に重要なのは復習である。授業で学習した内容がよく理解できない場合は、必ず次回に質問して理解を深めるようにする。
（その他）
中間で理解を確認するテストがあるので、この準備をすることを通じ、忘れないうちに学習した知識を整理すること。後半は、チームごとに、主体的に調査や分析、発表の準備を行う。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
宿題や授業中の発言など	(20%)	秀：適切に問題点を指摘し、特筆すべき鋭い分析や考察ができ、現実的な解決策を提示できる
中間テスト	(30%)	優：授業で学習したことを良く理解でき指摘した問題点に対し適切な解決策を提示できる
チーム発表	(30%)	良：授業で学習した内容を基本的には理解でき、指摘した問題点に対し解決策を提示できる
最終テストまたはレポート	(20%)	可：授業内容の理解、問題点の指摘と解決策の提示が、最低限の水準を満たしている 不可：授業の内容が理解できておらず、問題点や解決策の提示ができない、あるいは3分の1を超えて欠席した

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

日常的に、レポートの結果については授業中にコメントしたりして対話型の授業とする。テストの結果や研究発表についても、授業の中で注意点やコメントを述べていく。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	経営能力開発センター編「経営学検定試験公式テキスト１」中央経済社（就職対策として、資格の取得に興味のある人に役立つ。）基本的には、講義のレジュメの中で、参考文献を紹介する。授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	企業経営の考え方を理解することは、企業で働く働かないにかかわらず、現代を生きる全ての人が身につけるべき重要な基礎知識です。是非一緒に学習しましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	大企業、子会社、海外子会社（米国法人）、社内ベンチャーなどでの経営を含む業務経験25年
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
経営学入門				加藤　好雄	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

経営とは、組織や事業を運営・管理することである。組織には企業をはじめ、病院や行政組織も含まれてくる。また、事業（プロジェクト）には大規模な事業から身近なプロジェクトまで様々なかたちで存在している。
本講義では、様々な側面をもつ経営について、「制度の選択」「戦略の形成」「組織の枠組みづくり」「組織における人間の対応」の4つの領域に整理して進める。また、経営学を学ぶための手法であるケーススタディについても説明をする。

授業の到達目標

本講義では、以下の３点の知識・能力を習得することを目的とする。
①経営学の基礎概念を理解している。
②経営学の基礎的な用語を説明することができる。
③企業等の経営について適切な用語を用いて説明することができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス＋経営学の基礎概念
第 2 回	経営学とはどのような学問か＋企業と会社の制度的な特徴
第 3 回	ケーススタディを学ぶ　ー事例を紹介ー
第 4 回	コーポレートガバナンスと企業の社会的責任
第 5 回	経営理念、目的と戦略
第 6 回	企業戦略
第 7 回	競争戦略と事業システム
第 8 回	小テスト①＋今までの復習
第 9 回	組織構造
第 10 回	組織文化＋コンフリクト
第 11 回	リーダーシップ＋モチベーション
第 12 回	小テスト②＋今までの復習
第 13 回	経営の実際（ゲストスピーカーを予定）
第 14 回	ケースにおける課題解決の手法①（戦略・組織分野の事例）
第 15 回	ケースにおける課題解決の手法②（戦略・組織分野の事例）

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
事前にテキストを読んでおくこと。
関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。
授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。

（その他）
自分の身の回りにある課題についても、経営学の観点から考えてみてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
小テスト①	(20%)	秀：「授業の到達目標」を非常に高いレベルで満たしている。
小テスト②	(20%)	優：「授業の到達目標」を高いレベルで満たしている。
期末試験	(60%)	良：「授業の到達目標」を十分に満たしている。
		可：「授業の到達目標」を満たしている。
		不可：「授業の到達目標」を満たしていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の「確認テスト」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書　名】	経営学入門	【著　者】	藤田誠
	【出版社】	中央経済社	【出版年】	2015年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要な資料は講義中に配布する。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	経営学を学んでないとレベルが高く感じられると思いますが、講義内容は経営学の各分野を学ぶ基礎でしかありません。予習・復習で対応してください。 ※出席確認のために座席を指定します。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
保健体育				芦田　信之	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

人が成長する過程において、知育・徳育・体育・食育があり、そのうち体育は運動を通じて人格形成・成長の教育の場であった。それぞれのライフステージにおいて運動を通じた身体つくりは、学校教育、社会人の生涯スポーツ、高齢者の健康維持に必要な生活習慣である。学校教育において体育は講義科目としての保健体育と実技としての各種スポーツの実施が組み込まれている。本講義は健康増進を目指して運動をおこなうにあたり、身体の仕組みと機能をまなび、運動習慣の形成を促すものである。また、競技スポーツを自然科学の視点からとらえ、スポーツ生理学、スポーツ物理学、用具の科学等を学ぶことによって、日常生活に運動を取り入れるための理論を学ぶ

授業の到達目標

身体の構造と機能についての知識を身につける。日常生活に運動を取り入れ、運動習慣を身につける。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	授業ガイダンス　健康増進の生活スタイル
第 2 回	運動習慣と生活習慣病予防　　健康増進
第 3 回	骨・筋肉構造と機能　エネルギー補給
第 4 回	間違いだらけの健康情報　　エビデンスレベルとは
第 5 回	栄養とスポーツ
第 6 回	身体能力　活動度測定　バイタルサイン
第 7 回	子供の体力・運動能力　成長
第 8 回	加齢と運動　　老化
第 9 回	脳と運動　　随意運動　不随意運動　脳の老化
第 10 回	ストレスと運動　　自律神経、ホルモン調節
第 11 回	運動トレーニング　バイオメカニクス
第 12 回	スポーツの中の科学　　スポーツと文化
第 13 回	スポーツの中の科学　　理にかなった動き
第 14 回	スポーツの中の科学　　競技としてのスポーツ
第 15 回	生涯スポーツ、障害者スポーツ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習) WebClass　にて資料配布と課題提出を行う。授業前に閲覧しておくこと

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
授業のキーワードとなる項目についての確認テストをネット上でおこなうので、次の週までに実施しておくこと

(その他)

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　　(割合)	評価基準
期末レポート　　(60　%) 毎講義の確認テスト　(40　%)	評価基準は次のとおり。 秀：総合点90点以上 優：総合点80～89点 良：総合点70～79点 可：総合点60～69点 不可：総合点59点以下 放棄：演習に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

WebClassにより実施する。

テキスト (Textbook)	【書名】　　【著者】 【出版社】　　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	WebClass　にて資料配布

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	生物学を授業を受講していない人も受講できます。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	WebClassにより実施する。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
地域イノベーション				平野 真	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

この授業では、地域において具体的にどのように産業や地域社会を活性化しあるいは行政も含めてイノベーション（革新、新規ビジネスなど）を起こしていくか、その手法を学び、ワークショップによりスキルを身につけていくことを目的とする。科目授業として学んだマーケティングや企業経営、戦略論などの経営知識、また公共経営の知識をも総動員して、つまりいままで学んできたことの総復習を行いながら、自ら考え創造していく能力を身につける。特に、「地域での」イノベーション創発において、どのようなことに留意すべきかも考えながら、現実に地域で起業したり、地域の特産物を開発したり、地域の観光を活性化したりするための、具体的な手法と知恵を学ぶ。なお授業の進め方や評価手法については、多少の変更を行うことがある。この授業は、学習者の主体性が非常に重要なので、自ら考えていく気構えのない人は受講してはいけない。

授業の到達目標

1)売れる商品や、人の来る観光地をつくるための考え方を理解する、2）ビジネスにおいて利益を創出するための基本的な考え方を理解する、3）事業プランを練るための基本技術を習得する、4）簡単な企画書を書き、多くの人の前で発表することができる

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション、イノベーションとは？
第 2 回	アイデアの創出：ドラッカーの指摘するビジネスチャンス
第 3 回	利益の創出：損益分岐という概念の深い理解
第 4 回	ブランドの形成：無形資産の経営
第 5 回	アイデア発表会（学生による提案、個人発表）
第 6 回	企画書の書き方：押さえておくべきポイント
第 7 回	事業戦略の考え方：戦略ツールの罠
第 8 回	人を動かすリーダーシップ：資質論から行動論へ
第 9 回	組織をどう動かすか：組織運営の目指すもの
第 10 回	中間テストによる理解確認
第 11 回	ワークショップのチーム分けとテーマの選択
第 12 回	参考となるイノベーション事例の紹介
第 13 回	プレゼンテーション技術について（考え方とノウハウ）
第 14 回	企画書発表会（チーム発表）
第 15 回	総復習とまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
この授業では、知識よりもアイデアや考える力が重要である。自分のなかで、絶えず色々なアイデアを考えておく。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業時間外に、自分のアイデアをまとめたり、チームでの打ち合わせをしてチーム発表に備えたりしなければならない。そのためには、授業で学んだことを復習し、内容を理解していないと前へ進めない。
（その他）
単なる座学ではなく、自ら努力し学習し、チームをもまとめていく主体的な態度、すなわち現実社会で実際に仕事を行っていくための基本的な姿勢を身につけていくことが要求される。そうした気構えを持つことが参加の条件である。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	（割合）	評価基準
アイデア発表 中間テスト チーム発表 最終テストまたはレポート	(30%) (30%) (30%) (10%)	秀：適切に問題点を指摘し、特筆すべき鋭い分析や考察ができ、現実的な解決策を提示できる 優：授業で学習したことを良く理解でき指摘した問題点に対し適切な解決策を提示できる 良：授業で学習した内容を基本的には理解でき、指摘した問題点に対し解決策を提示できる 可：授業内容の理解、問題点の指摘と解決策の提示が、最低限の水準を満たしている 不可：授業の内容が理解できておらず、問題点や解決策の提示ができない、あるいは3分の1を超えて欠席した

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

日常的に、レポートの結果については授業中にコメントしたりして対話型の授業とする。テストの結果や研究発表についても、授業の中で注意点やコメントを述べていく。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	経営能力開発センター編「経営学検定試験公式テキスト１」中央経済社（就職対策として、資格の取得に興味のある人に役立つ。） 基本的には、講義のレジュメの中で、参考文献を紹介する。授業は配布資料を中心に進める。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	地域の活性化でも企業運営でも、いま最も必要なのはアイデアを出し実行できる人である。そのような人財になるため、この授業は有益である。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	社内ベンチャーをはじめ、新規事業のインキュベーション、NPOの設立運営などを経験
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
人的資源管理論				鄭　年皓	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

本講義は、経営資源の4要素たる3M＋I（Man, Money, Material, Information）のうち、人的資源（Man）に焦点を当て、主として「従業員の能力を最大限に引き出すためには、どのように従業員を管理・支援すべきか」という観点に基づき、関連した理論を解説することを目的としている。

そこで、本講義では人的資源管理に関する多様な基礎理論を踏まえた上で、最近の労働市場の多様化にともなう新たな人的資源管理を積極的に学習していく。また、本講義では、人的資源管理に対する事例（日本企業と海外企業の事例）を多数紹介し、事例によって基礎理論に対する理解を深めていく。これにより、人的資源管理に関して総合的・有機的視野を習得していくことを目標とする。

授業の到達目標

企業におけるプライム・リソースとしての人的資源の意義と役割を理解する。
人的資源管理に関するニュースや報道、記事等に接したとき、より深く理解する能力を身につける。
独自の観点で人的資源管理の様々なテーマを論じることができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	人的資源管理のねらい：人的資源管理とは、人的資源管理の目的、人的資源管理の主体
第 2 回	人事情報管理：人事情報システム、職務分析、人事考課
第 3 回	募集・選考管理
第 4 回	配置管理：適性配置と適正配置
第 5 回	昇進・昇格管理
第 6 回	退職管理：定年制と雇用調整
第 7 回	OJT, off JTと自己啓発
第 8 回	一般訓練と特殊訓練
第 9 回	階層別教育訓練
第 10 回	人事考課対象と人事考課プロセス
第 11 回	多面評価制度と分析的人事考課
第 12 回	福利厚生管理、労働時間管理
第 13 回	賃金管理の役割、賃金水準の決定要因、賃金形態
第 14 回	人的資源管理の国際比較
第 15 回	これからの人的資源管理、総括

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。
関連したテーマに対して、テキストを予め読んでください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
講義で説明した専門用語を理解した上で、各テーマの全般的な論理展開を吟味し、講義で紹介した参考文献（書籍、新聞・雑誌の記事、インターネットの関連したサイト等）を精読してください。

（その他）
人的資源は企業における単なる資源としての手段的な存在ではなく、その複雑性・多様性を尊重する上で、組織（企業）と共に成長していくプライム・リソース（prime resource）であることを認識した上で、独自の観点で人的資源管理の意義と役割を考えてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
レポート課題（3回を予定）	(30%)	秀：多様な基礎理論を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開することができる。
授業内小テスト（2回を予定）	(20%)	優：基礎理論に対する理解度が高く、それを論理的に論じることができる。
定期試験	(50%)	良：基礎理論の内容を概ね理解している。
合計	100%	可：基礎理論に対する最低限の理解水準に達している。
		不可：基礎理論に対する最低限の理解水準に達していない。
		放棄：講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題 と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】『人的資源管理と日本の組織』 【著者】山下洋史 【出版社】同文館出版 【出版年】2016
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	『人的資源管理論』、八代充史、中央経済社、2018 ＊その他の参考書については、適宜紹介する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	あらゆる経営（営利組織の経営と非営利組織の経営の両方）には、人財の育成と活用が必須の課題になります。地域社会の活性化も例外ではなく、こうした人財の育成と活用の観点で地域活性化の多様な課題を捉えていくを期待します。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
教育学				江上　直樹	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

ひとえに「教育学」といっても、そこには教育哲学・教育史・教育方法学・教育心理学・教育社会学・教育法学・教育行政学・比較教育学等の様々な学問領域が存在する。本講義では、それら教育学の各種領域について入門的な内容を紹介するとともに、現在の教育に関する論点について具体的な事例を取り上げて各テーマについて検討する。

教育という営みは、現代社会で生活するうえで誰しもが経験するものであり、教育問題について思索する際に、自身の経験のみをその根拠として議論を行う者も少なくない。しかしながら、その教育問題の背景には、人間個々の問題から法制度等の社会的な背景まで様々な論点が存在する。そこで本講義では、教育学の各種領域についての基礎的な知識を習得することとともに、現代的な教育問題について主体的に思索する機会を提供し、教育について多面的な観点から考察を進めることができるようになることをその目的とする。

授業の到達目標

①教育学の各種領域について、その概要を簡単に説明することができるようになる。
②教育に関する問題について、多面的に問いを立てることができるようになる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション（講義の進め方、評価方法）、教育学の各種領域について
第 2 回	教育の意義と目的
第 3 回	教育思想①（ソクラテスの産婆術、コメニウスの大教授学、ルソーの子ども観）
第 4 回	教育思想②（ペスタロッチの開発教授、ヘルバルトの教授法、デューイの児童中心主義）
第 5 回	教育史①（古代ギリシア～古代ローマ～中世ヨーロッパ～産業革命期の近代公教育へ）
第 6 回	教育史②（日本の教育史：古代の学校～中世の学校～学制による近代公教育制度の確立）
第 7 回	教育制度①（教育制度の基本原理、教育における法律主義）
第 8 回	教育制度②（日本の教育行政組織）
第 9 回	教育制度③（教員の養成・採用・研修）
第 10 回	教育課程①（学習指導要領の変遷）
第 11 回	教育課程②（学校で身につける能力とは）
第 12 回	教育方法①（授業の歴史、授業のデザイン）
第 13 回	教育方法②（教育の評価）
第 14 回	その他の教育上の論点
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
各講義において予習用の資料を配布するので、そのを読み次回の授業に備えること（45分程度）

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
各講義において特に関心をもった点を自分なりに整理し、自身のレポートテーマになり得る領域の資料を探し整理しておくこと（45分程度）

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
ミニ課題 期末レポート	(30%) (70%)	ミニ課題については、各授業ごとに提示し、その授業内で記述し提出をもとめる。内容に応じて各回0～2点で採点し、合計30点とする。 期末レポートについては、「自身の関心のある教育問題についてテーマを設定し、先行研究・先行事例の内容をふまえつつ、自身の考えを論じよ」という課題についての記述を求め、その内容を70点満点換算で採点する。主に「レポートの目的が明確か」「なぜそのテーマを設定したのか、社会的な意義という点から記述しているか」「先行研究等を適切に引用しているか」「根拠にもとづき考察を行っているか」という点を採点のポイントとする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回の授業の最初に、前回のミニ課題についての講評を行う。
期末レポートのフィードバックについては、希望者がいる場合、その希望者と時間を合わせて直接講評を行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	授業時に適宜提示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	「教育学」について広く浅く取り扱う入門的な授業です。この授業で関心をもった部分について、レポート等で受講生それぞれがより深く学んでもらえればと思います。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
マーケティング				加藤　好雄	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

参考文献の序文では、「現在ではマーケティングは限られた業務を担った企業の１部門ではなく、全社をあげた事業活動である。マーケティングが企業のミッション、ビジョン、戦略策定を主導する。企業の全部門が目標達成のために協力して初めてマーケティングは成功するのである。」とある。このように、マーケティングは企業活動に不可欠であるが、先進的な自治体においてもマーケティングの基礎概念を取り入れた事業が行われてきている。授業で習得したマーケティングの概念や知識は、専門研究での調査・分析や就職した様々な業種の企業で役立つことになる。

本講義では、マーケティングで重要なSTP、マーケティング・ミックス（製品戦略・価格戦略・流通戦略・プロモーション戦略）、そして、ブランド戦略を体系的に学び、さらに、消費者行動論やマーケティング・リサーチの基礎的な概念・知識を学ぶことでマーケティングへの理解を深める。

授業の到達目標

本講義では、以下の４点の知識・能力を習得することを目的とする。
①マーケティングの概念・用語・知識を体系的に理解している。
②消費者行動論の基礎的な概念を理解している。
③マーケティング・リサーチの基礎的な手法の知識を理解している。
④マーケティング戦略を、適切な用語を用いて説明することができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス＋マーケティングの基礎概念
第 2 回	STP ①（セグメンテーションとターゲティング）
第 3 回	STP ②（ポジショニング）
第 4 回	マーケティング・ミックス①（製品戦略）
第 5 回	マーケティング・ミックス②（価格戦略）
第 6 回	マーケティング・ミックス③（流通戦略）
第 7 回	マーケティング・ミックス④（プロモーション戦略）
第 8 回	ブランド戦略
第 9 回	消費者行動論の基礎（消費者行動とマーケティング）
第 10 回	マーケティング・リサーチ（市場調査）の基礎
第 11 回	小テスト＋今までの復習
第 12 回	マーケティングの実際（ゲストスピーカーを予定）
第 13 回	サービス産業の構造とマーケティング
第 14 回	ケースにおける課題解決の手法①（マーケティング・流通分野の事例）
第 15 回	ケースにおける課題解決の手法②（マーケティング・流通分野の事例）

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
事前にテキストを読んでおくこと。
関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。
授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。

（その他）
自分の身の回りにある課題についても、マーケティングの観点から考えてみてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	（割合）	評価基準
小テスト	(30%)	秀：「授業の到達目標」を非常に高いレベルで満たしている。
毎回の確認テスト	(20%)	優：「授業の到達目標」を高いレベルで満たしている。
期末試験	(50%)	良：「授業の到達目標」を十分に満たしている。
		可：「授業の到達目標」を満たしている。
		不可：「授業の到達目標」を満たしていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の「確認テスト」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書　名】	１からのマーケティング・デザイン	【著　者】	石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編
	【出版社】	碩学舎	【出版年】	2016年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要な資料は講義中に配布する。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	小テストと期末試験は、必ずテスト対策をするようにしてください。 ※出席確認のために座席を指定します。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
生物学				芦田 信之	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

医療福祉経営学科では、診療情報管理士をめざすにあたり、その業務内容が診療録の管理であり、その内容を理解するには、病気に関する知識が不可欠であり、それらに関する専門科目が多く開講されている。それらの学習の前提となる人体の構造と機能の基礎知識があることが望ましい。広い生物学の学習範囲の中から、人体に関する分子生物学や細胞生物学および病原微生物学を題材とした生物学を学ぶ。
高校の生物学の項目を「大学教養科目としての生物学の立場から再構成」しているので、地域経営学科の学生も、教養として人体の構造と機能を学ぶとよい。

授業の到達目標

生物の構成成分（タンパク質、核酸、脂質、糖質など）を理解し、生物と無生物の境界が考察できる。
細胞の機能と働きを知り、単細胞と多細胞の境界を考察できる。人体の組織、臓器の働きを知り、
健常な状態と病的な状態の理解ができる

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	授業ガイダンス、細胞と個体のなりたち　細胞膜と細胞内小器官
第 2 回	単細胞生物と多細胞生物　生物の進化
第 3 回	生殖と発生　ひとつの受精卵から　生物は子孫を残す。
第 4 回	分子生物学からみた生命　生体の機能とタンパク質
第 5 回	生体内の化学反応と酵素　酵素はたんぱく質でできている。
第 6 回	遺伝と遺伝情報　ＤＮＡの構造と遺伝のしくみ　たんぱく質合成のしくみ
第 7 回	細胞、組織、器官　臓器の働き
第 8 回	植物生理学のすすめ　動物と植物の違い
第 9 回	人体生理学　刺激の受容と反応　五感（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚）と脳
第 10 回	受容器と効果器　筋肉のはたらき
第 11 回	内部環境の恒常性　体液の恒常性
第 12 回	自律神経系とホルモン　体温の維持、血糖値の調節
第 13 回	免疫と病原性微生物　細胞性免疫と体液性免疫
第 14 回	バイオテクノロジー 医療技術とノーベル賞
第 15 回	生命倫理・医療倫理

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）WebClass　にて資料配布と課題提出を行う。インターネット上には、優れた「生物学」・「人体のしくみ」・「生理学」の教材があるので各回のテーマに従った参照サイトを閲覧しておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業のキーワードとなる項目についての確認テストをネット上でおこなうので、次の週までに実施しておくこと

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験	(60 %)	評価基準は次のとおり。 秀：総合点90点以上 優：総合点80～89点 良：総合点70～79点 可：総合点60～69点 不可：総合点59点以下 放棄：演習に3分の2以上は出席していない。
毎講義の確認テスト	(40 %)	

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

WebClassにより実施する。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	WebClass　にて資料配布

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	高校で生物に関する授業を受講していない人も受講してください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	教務システムWeb ClassおよびGoogle formの利用	
関連する実務経験	経験内容	研究所・大学病院・大学における臨床研究および教育
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
観光総論				中尾 誠二	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

本科目では、観光に関する基本的な知識を学習します。観光の基本概念、関連産業の概要、将来展望など幅広く講義を行います。（なお、複数回ゲストスピーカーによる講義を行う可能性があります。）

授業の到達目標

1）観光に関する基本的な知識を身につけ、説明できる。
2）観光には様々な業種があって相互に関連していることを理解し、説明できる。
3）観光に関する最近の動向や課題について理解し、自らの意見を述べることができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	観光とは
第 2 回	旅行会社
第 3 回	鉄道、高速道路
第 4 回	宿泊業
第 5 回	飲食業
第 6 回	物販業
第 7 回	名所、旧跡、温泉
第 8 回	登山、スキー場、海水浴場
第 9 回	テーマパーク
第 10 回	世界遺産、ジオパーク
第 11 回	多様なツーリズム
第 12 回	航空会社
第 13 回	アウトバウンド観光、インバウンド観光
第 14 回	ゴールデンルート、バリュールート
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
① ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
① 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験 講義ノート記載状況 受講態度	(40%) (40%) (20%)	秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義ノート記載状況を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	前田勇編著『新現代観光総論』ほか適宜紹介します

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	講義後は毎回ノート提出を求めるため、バインダー（ルーズリーフ）方式のノートを推奨する。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
環境学				矢口芳生・中尾誠二・塩見直紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

自然科学・人文科学・社会科学の知見を人間の生活との関係において講じ、人間の生活を取り巻く自然・地域・地球環境の密接な関係を明らかにし、人間と自然・環境との共生の必要性について学ぶ。
講義で具体的に取り扱う内容は、地球温暖化・酸性雨・オゾン層破壊等の地球環境問題、公害・環境汚染問題、ごみ・水問題、企業の環境経営、環境教育等に及ぶ。

授業の到達目標

自然科学・人文科学・社会科学の知見を総合的に応用し、生活のあり方を再考することにより、人間の生活を取り巻く自然・地域・地球環境との密接な関係に支障を生じさせないようにすることの重要性を理解するとともに、人間と自然・環境との共生の必要性について理解できるようにする。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	はじめに（矢口）
第 2 回	地球環境、何がどう問題？（矢口）
第 3 回	公害と環境汚染（矢口）
第 4 回	地球温暖化の科学と政治（矢口）
第 5 回	小括（矢口）
第 6 回	酸性化する大気と海洋（塩見）
第 7 回	石油は40年でなくなるのか？（塩見）
第 8 回	オゾン層破壊がもたらすこと（塩見）
第 9 回	生態系の危機（塩見）
第 10 回	小括（塩見）
第 11 回	あふれるごみ（中尾）
第 12 回	水の危機の時代（中尾）
第 13 回	企業と環境経営（中尾）
第 14 回	環境教育の目指すもの（中尾）
第 15 回	小括（中尾）

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
① 授業前にテキストの該当部分を予め読んでおくこと。
② ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
① 授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。
② 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
毎回配布する授業シート 小括時時の試験	(50%) (50%)	秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テキスト (Textbook)	【書名】 新訂 地球環境の教科書10講 【著者】 九里徳泰・左巻健男・平山明彦 【出版社】 東京書籍 【出版年】 2014
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜紹介する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)		
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
経営情報システム論				神谷　達夫	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修生・聴講生

授業の概要

この講義は、急速に発展する情報通信技術を経営に生かすために必要な知識を学ぶことを目的としている。　この講義では、まず、情報技術を経営に生かすための基礎的な情報技術について学ぶ。その後、情報システムの設計・開発・管理について学ぶ。

授業の到達目標

(1) 経営のために必要な最低限の情報通信技術を説明することができる。

(2) 経営情報システムの構築に必要な要件定義を作成するための基礎知識が理解できる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス　経営情報システム論講義の概要
第 2 回	コンピュータの基礎知識　　コンピュータの種類
第 3 回	コンピュータの基礎知識　　情報とデータの取り扱い
第 4 回	コンピュータハードウェア　　中央処理装置(CPU)
第 5 回	CPUの種類と特徴
第 6 回	入出力装置の種類
第 7 回	ソフトウェア
第 8 回	コンピュータと情報システム
第 9 回	データベースシステム
第 10 回	システムの設計と開発
第 11 回	システム設計の手法
第 12 回	ヒューマンインターフェース
第 13 回	内部設計
第 14 回	システムの運用と管理
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
教科書を読み、分からない語句を調べておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
授業内で分からなかった事項や語句を調べて理解すること。

(その他)
本講義の教科書は、経営情報論について網羅的に記述されているため、この本を読むだけでは完全に内容を理解することができないと思われる。したがって、教科書の内容で分からないことがあれば、授業時間以外に自発的に調べることが必要である。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験	(80%)	秀：講義で扱った経営情報システムの知識とその応用方法を論理的に説明でき、その知識を応用できる
課題の提出	(20%)	優：講義で扱った経営情報システムの知識とその応用方法を論理的に説明できる
		良：おおよその説明はできており、かつ、簡単な計算等はできる
		可：簡単な計算等はできる
		不可：大学生として最低限必要な経営情報システムに関する知識を有していない

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出した課題の解答は、授業内で説明します。また、個別の質問にも応じます。

テキスト (Textbook)	【書名】 コンピュータと情報システム[第2版]　【著者】 草薙信照 【出版社】 サイエンス社　【出版年】 2015
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	講義中に参考文献を紹介する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	この科目では、情報処理システムの平易な解説を目指します。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	コンピュータシステムの設計
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
流通システム論				佐藤　充	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

我々の生活は、多様なモノやサービスを購入することで成立する。これらの消費活動は、生産者から消費者までを結ぶ流通システムによって支えられている。現代社会において、流通システムを構成する卸売業や小売業は不可欠なものである。そして、日常生活に直結するものであることから、我々が暮らす地域の動向をも左右することとなっている。

本講義は、基本的な流通システムの仕組みや役割を学習するとともに、卸売業と小売業の事業形態やその実態について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域における流通システムや商業空間の意義や問題点を議論・検討するものである。

※必要に応じて、ゲスト講師による講義を行う予定である。

授業の到達目標

① 流通システムの全体像を理解し、卸売業や小売業の仕組みや役割を説明することができるようになる。
② 卸売業や小売業が直面する問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション　現代社会における流通システムの動向
第 2 回	流通システムの仕組みと現状
第 3 回	小売業の事業形態と機能
第 4 回	小売業の発展プロセスとその理論
第 5 回	我が国における小売業の成り立ちとその展開
第 6 回	小売業態の動向と現況
第 7 回	卸売業の事業形態と機能
第 8 回	卸売業の発展プロセス
第 9 回	卸売業の動向と減容
第 10 回	マーケティングチャネルと流通系列化
第 11 回	流通システムと情報化
第 12 回	流通システムと国際化
第 13 回	商店街とまちづくり
第 14 回	我が国における流通政策の変遷
第 15 回	全体のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
各講義の最後に、次回までの小課題を指示する。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。

(その他)
ニュースや新聞記事等に目を通し、流通システムに関する時事問題について、自らの意見を考えること。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験 小課題 講義での発言	(60%) (30%) (10%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、すぐれた解決策を提示できる。 優：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、解決策を提示できる。 良：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点についておおよその説明ができ、一応の解決策を提示できる。 可：概念やフレームワークを理解し、事象の問題点について最低限の説明ができる。 不可：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点を説明できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。

テキスト (Textbook)	【書名】 【出版社】	新・流通と商業　第6版 有斐閣	【著者】 【出版年】	鈴木安昭ほか 2016年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜、講義内で紹介します。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	講義内容について復習してください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
非営利組織論				杉岡 秀紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

1998年に議員(市民)立法で成立した特定非営利活動促進法（NPO法）の施行から約20年の歳月が経ち、日本におけるNPO法人数は5万団体を超えた。確かに数だけで見れば、NPOは、政府セクター、企業セクターに次ぐ第三番目のセクターになり得た感がある。しかし、財政面やマネジメント面も含め、まだまだ組織及びセクターとして克服すべき課題が山積している。

そこで、本講義ではNPOや公益財団等含む非営利組織に着目し、学びを深める。そして、可能な限り北近畿地域の非営利組織の第一線で活躍するゲストも招聘しながら、実際のNPOの事例や課題について見聞できる機会も作りたい。

なお、講師は、自らNPOを立ち上げたことがあるほか、現在も多くのNPOで役員を務めている。そういった意味から机上の空論ではなく、現場から抽出されたエッセンスも伝えていきたい。

授業の到達目標

以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。
・グローバル化する世界と地域社会の関係を理解できる。
・対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。
・地域社会における様々な活動と、活動をになう主体との関係の実践的把握ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス（自己紹介、講義の概要、NPOとは何かなど）
第 2 回	NPOと法・立法過程
第 3 回	NPOとボランティア
第 4 回	NPOと協働
第 5 回	NPOとソーシャルビジネス
第 6 回	NPOの雇用、人的資源管理
第 7 回	NPOのマーケティング・マネジメント
第 8 回	NPOとインターミディアリとアドボカシー
第 9 回	NPOの評価
第 10 回	NPOとプロボノ
第 11 回	NPOと寄付
第 12 回	事例研究（1）慈善型NPO
第 13 回	事例研究（2）事業型NPO
第 14 回	事例研究（3）中間支援NPO
第 15 回	まとめ、ふりかえり

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
シラバスで次回のテーマを確認し、テキスト等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 (割合)	評価基準
出席点 (15%) 小レポート (15%) 授業態度・講義への貢献 (10%) 期末レポート (60%)	秀：講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。 優：講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。 良：講義で習った概念を理解でき、他者に一部説明することができる。 可：講義で習った概念を最低限理解している。 不可：講義で習った概念を理解できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。

テキスト (Textbook)	【書名】	NPO最善戦	【著者】	平尾剛之ほか
	【出版社】	京都新聞出版センター	【出版年】	2018
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	山内直人『NPO入門』(日本経済新聞社、1999)、山本啓・雨宮孝子・新川達郎編著『NPO と法・行政』(ミネルヴァ書房、2002)、NPOと行政の協働の手引き編集委員会『NPOと行政の 行動の手引き』(社会福祉法人大阪ボランティア協会、2004)、田尾雅夫『実践NPOマネジメント 』(ミネルヴァ書房、2004)、岡村榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』(社会福祉法人大阪ボランティア協会、2006)、早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こず恵他著『テキスト市民活動論』(社会福祉法人大阪ボランティア協会、2011)、杉岡秀紀編著『地域力再生とプロボノ (京都政策研究センターブックレットvol３)』(公人の友社、2015)			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	・本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブ・ラーニング）。 ・３分の１を超える欠席は、単位不可とする。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。 Eメール（sugioka-hidenori@fukuchiyama.ac.jp）に連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	複数のNPO代表、理事、監事、評議員ほか
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
情報処理論Ⅰ				山田　篤	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

現代社会ではあらゆる場面で情報処理技術が活用されており，人々は日常的に情報機器を使用するようになっている。本講義では，一般教養としてコンピュータを中心とした情報処理技術の基礎的な側面について学び，それが実社会でどのように活用されているのかについて考える。情報処理の分野は日々変化しているが，現在の情報処理の基本的な仕組みを理解することで，情報処理技術の利用者として今後の様々な変化にも対応できる能力を身につける。そのため，本講義ではコンピュータの仕組みや，そこで扱われるデータの表現方法，ハードウェアやソフトウェアの動作等の基礎的な技術の概要を取り扱う。

授業の到達目標

基礎的な情報処理技術について理解することにより，その利用者として高度情報化社会で生きていくために必要な力を身につけることを目指して，以下の3点を到達目標とする。
(1) コンピュータの基本的な仕組みやデータの表現方法について理解し，説明ができる。
(2) コンピュータプログラムの動作や記述方法について理解し，説明ができる。
(3) 上記2点を実社会における応用事例と関連付けて説明ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	アナログとディジタル
第 3 回	情報の基本単位ビット
第 4 回	情報のコード化
第 5 回	数値表現
第 6 回	ディジタルデータの記録
第 7 回	コンピュータの構成
第 8 回	ハードウェア
第 9 回	コンピュータの種類
第 10 回	ソフトウェア
第 11 回	プログラミング
第 12 回	コンパイラとインタプリタ
第 13 回	ディジタルコンテンツ
第 14 回	ディジタルコンテンツと権利
第 15 回	まとめと展望

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
次の授業内容に対応する教科書の範囲を示すので，予め読んでおき，わからないところや疑問に思う点を書き出し，授業中に質問ができるように準備しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
対応する教科書の範囲をもう一度読み直して，わからなかった点や疑問点が解消されたか，確認をすること。解決していない点は仲間同士で話し合ったり，オフィスアワーを使って質問をすること。単に答えを求めるのではなく，自分がどう考えるかをきちんと説明できるようにすること。
(その他)
授業で取り上げた技術が，自分の身の回りでどのように使われているかについて考えてみる。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
課題 期末試験	(20%) (80%)	評価基準は次のとおり。 秀：講義で扱った情報処理技術について内容を理解し，自分の言葉で説明できる。 優：講義で扱った情報処理技術について内容を理解し，一般的な説明ができる。 良：講義で扱った情報処理技術について，一部不正確だが大まかな説明ができる。 可：講義で扱った情報処理技術の一部について，最低限の説明ができる。 不可：講義で扱った情報処理技術について，説明ができない。 放棄：講義に3分の2以上出席という要件を満たしていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業時間内の課題については次の授業の冒頭でポイントと考え方を説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】 文系学生が学ぶ情報学　【著者】 大内　東　編 【出版社】 コロナ社　【出版年】 2012
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜授業時間内に提示

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	情報技術は日進月歩で進化していきます。基本的な考える力を身につけて，世の中の変化に対応できるようになりましょう。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	経験内容　システム開発，コーパス作成，フォント作成
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

科目名称				担当教員	
工業簿記				井上　直樹	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

工業簿記は、製造業の経営活動を複式簿記により記録・計算し、その結果を明らかにすることが中心となる。会社の資産、負債、純資産の増加・減少を記録・計算し、それらを財務諸表へ表示することが主目的である点は商業簿記と同じであるが、工業簿記は、経営内部活動としての製造活動から生じる様々な取引の記録・計算が含まれる点に特徴がある。
本講義では、製造業における工業簿記を主な対象としているが、営利・非営利、業種などを問わず、各主体における主に製造活動上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、製造原価情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。

授業の到達目標

工業簿記の特徴を理解し、基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算ができる。
工業簿記の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、日商簿記検定試験を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンスと工業簿記の全体像
第 2 回	工業簿記のしくみ
第 3 回	材料費計算
第 4 回	労務費計算
第 5 回	経費計算
第 6 回	製造間接費計算
第 7 回	部門費計算
第 8 回	個別原価計算
第 9 回	部門別個別原価計算
第 10 回	総合原価計算(1)：総合原価計算の特徴
第 11 回	総合原価計算(2)：月末仕掛品原価と完成品総合原価の計算
第 12 回	直接原価計算
第 13 回	標準原価計算
第 14 回	総合問題演習と解説
第 15 回	これまでの内容のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
授業ごとに前回授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。

(その他)
授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　(割合)	評価基準
期末試験(60%) 授業中の小テスト(30%) 授業態度(10%)	【秀：100点 - 90点】適切に工業簿記の理論を把握し、基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算ができる。 【優：89点 - 80点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算をよく理解している。 【良：79点 - 70点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算を一応理解している。 【可：69点 - 60点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算の理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。 【不可：59点 - 0点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算を理解できていない。 【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。

テキスト (Textbook)	【書名】	スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記	【著者】	滝澤 ななみ
	【出版社】	TAC出版	【出版年】	2019年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	理論だけではなく、電卓をたたき、問題を繰り返し解かなければ工業簿記の理解を深めることができません。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。	

科目名称				担当教員	
「持続可能な社会」論				矢口 芳生	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

「持続可能性」・「永続可能性」・「持続可能な社会」という言葉は、一般的に定着し何気なく使われている。しかし、これらの言葉の意味する内容は非常に奥深くかつ歴史ある大きな概念である。1970年代前半に世界の政治と経済が大きく転換するが、これと軌を一にして歴史上に現れる。以後、意味する内容や具体的な方策等が深められ、国際政治経済および地域社会を考える上での重要なキーワード・キーコンセプトとして今日に至っている。

本学の理念・目的に関わる基本的科目である。講義では、「持続可能な発展」理念、それに基づく地域社会の見方、「持続可能な社会」のあり方、理念の実践過程・歴史的展開過程、地域社会における理念の実現方法等について、テキスト『持続可能な社会論』を用いて講じる。

授業の到達目標

世界・日本・地域の政治・経済・社会の状況を理解し、「持続可能な発展」理念を踏まえて、地域課題を改善・解決することに大きな関心をもつようにするため、次の点を到達目標にする（基礎知識の獲得と応用）。

1．日本と世界の社会の状況を理解し、「持続可能な社会」に関する用語を用いて説明できるようにする。
2．「持続可能な発展」理念を理解し、地域社会のニーズを把握し、討議できるようにする。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション、「持続可能な発展」の理念
第 2 回	「持続可能な発展」理念の展開過程
第 3 回	「持続可能な社会」への条件
第 4 回	「持続可能な社会」のデザイン
第 5 回	「持続可能な社会」についてのまとめ
第 6 回	持続可能性の確保の課題
第 7 回	科学技術と経済の課題
第 8 回	社会に不可欠な「持続可能な農林業」の課題
第 9 回	生活の質の向上と格差の是正の課題
第 10 回	「持続可能な社会」実現のための課題についてのまとめ
第 11 回	パラダイム転換の意義
第 12 回	「共生」理念の措定
第 13 回	「共生」への契機
第 14 回	共生社会システムの可視化と成立条件
第 15 回	「持続可能な社会」実現の方法についてのまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
テキストを読んでおくこと。
関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。
授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。

（その他）
自分の身の回りにある課題についても、「持続可能性」の観点から考えてみてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 （割合）	評価基準
適宜「理解度試験」を実施（計15点）。 期末に試験を実施（85点）。 合計100点（100 %）	評価基準は次のとおり。 秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「理解度試験」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】	『持続可能な社会論』	【著者】	矢口芳生
	【出版社】	農林統計出版	【出版年】	2018
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	参考書や資料等は適宜講義で提示する。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	この授業を受講することで「持続可能な社会の構築に貢献できる人財」を志すきっかけとなればうれしい。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
農業経営論				塩見　直紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

この授業は，日本における農業経営の現状と動向、農業経営における手法、戦略等を先進例、若手農業系ベンチャーや新しい潮流に学んでいく。地域資源活用、新しい組み合わせ、コンセプトメイク、ブランディング、情報発信等なども重要なキーワードとして、一般の企業経営においても応用可能な内容とし，考え方や方法の理解が深まるように事例紹介も含め講述する。農業系ベンチャーの企画も各自試みる。

授業の到達目標

・農業や農業経営の現状と課題について基本的な知識を修得する。
・経営センス、農業経営の在り方、戦略等を学ぶ。
・地域資源（地域資源創出）を活かした農業ベンチャー経営独自戦略プランを立案できる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	農業経営論の概要とめざす方向性について（オリエンテーション）、課題発表
第 2 回	若手農業ベンチャーに学ぶ農業経営、可能性、そして未来 (1)日本事例
第 3 回	若手農業ベンチャーに学ぶ農業経営、可能性、そして未来 (2)京都府内事例
第 4 回	若手農業ベンチャーに学ぶ農業経営、可能性、そして未来 (3)北近畿事例
第 5 回	農業経営の動向と現状(1)
第 6 回	農業経営の動向と現状(2)
第 7 回	農業経営の動向と現状(3)
第 8 回	先進的農業経営の事例(1)：家族経営
第 9 回	先進的農業経営の事例(2)：ＩＴ×農業
第 10 回	先進的農業経営の事例(3)：企業の農業参入
第 11 回	次世代農業経営の展望（1）　オーガニックトレンド（環境時代対応）
第 12 回	次世代農業経営の展望（2）　ＣＳＡ（地域との関係性）
第 13 回	次世代農業経営の展望（3）エネルギー兼業（組み合わせ戦略）
第 14 回	個別プランニング（農業ベンチャー構想）
第 15 回	試験・課題提出

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
・農業のあり方や農業系ベンチャー等の存在について、日ごろから問題意識をもつこと。
・農業系ベンチャーを自分も立ち上げるという気概をもち、関連書を手にするなど、自己学習をおこなうこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
・1回目に出す課題について、復習をおこない、充実をはかる（最終日提出）

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　（割合）	評価基準
試験・課題（80%） 毎回の感想・気づき・提案シート（20%）	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、課題や独自の解決策を的確に指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、課題を理解し、解決策を提示できる 良：おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している 可：課題の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：課題が説明できていない 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

本授業では思考のアウトプット（感想シート）を重視し、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	毎講義のレジュメの中で、適宜、参考文献を紹介する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	経験内容　－
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

科目名称				担当教員	
簿記論Ⅰ				井上　直樹	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

簿記は、企業等が行う様々な取引活動を効率的かつ体系的に記録し、ある時点での財政状態や一定期間の経営成績を明らかにするために必要とされるものである。
本講義では、複式簿記についての基礎的な知識や技術を修得し、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学んでいく。
本講義では、小規模株式会社を主な対象としているが、複式簿記にもとづく発生主義会計の考え方を理解することで、営利・非営利を問わず、各主体における会計上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、適切かつ的確な会計情報の収集・分析に必要とされる基礎的技能の学修を目指す。

授業の到達目標

小規模株式会社を前提として、簿記論の前提となる貸借原理・帳簿組織の基礎知識を修得し、簿記一巡の流れを理解することができる。また、仕訳による基本的な個々の会計処理を修得し、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解し、業務に活用することができる。
授業終了後、日商簿記検定初級程度の水準に到達することを目標とする。簿記の技術は自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、多くの問題を解く必要がある。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンスと簿記の全体像
第 2 回	貸借対照表と損益計算書
第 3 回	商品売買
第 4 回	現金・預金
第 5 回	手形と電子記録債権(債務)
第 6 回	その他の債権と債務(1)：貸付金・借入金、未払金・未収金など
第 7 回	その他の債権と債務(2)：前払金・前受金、仮払金・仮受金など
第 8 回	固定資産
第 9 回	租税公課と消費税・資本金
第 10 回	帳簿への記入
第 11 回	試算表
第 12 回	伝票と仕訳日計表
第 13 回	総合問題演習と解説(1)：前半の講義について
第 14 回	総合問題演習と解説(2)：後半の講義について
第 15 回	これまでの内容のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
授業ごとに前回授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。

(その他)
授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　(割合)	評価基準
期末試験(60%) 授業中の小テスト(30%) 授業態度(10%)	【秀：100点 - 90点】適切に簿記一巡の流れを把握し、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みをほぼ完全に理解できている。 【優：89点 - 80点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みをよく理解している。 【良：79点 - 70点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを一応理解している。 【可：69点 - 60点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みの理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。 【不可：59点 - 0点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解できていない。 【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　スッキリわかる 日商簿記初級　【著者】　滝澤ななみ 【出版社】　TAC出版　【出版年】　2018年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	簿記論Ⅱを履修し、日商簿記検定３級に合格することを目指してください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。	

科目名称				担当教員	
地域資源論				谷口　知弘	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

20世紀に構築された大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムは、経済成長を成し遂げ物質的な豊かさを生み出す一方、天然資源の枯渇や環境破壊等、地球規模での持続可能性の危機を招きつつある。日本においては先述の危機に加え、少子高齢や人口減少、東京一極集中、地方と大都市の経済格差、世代間格差など重大な問題に直面している。

地域資源論では、これらの問題解決のための理論と手法について地域資源を活用した地域づくりに焦点を当て講究する。持続可能な地域社会を実現するための地域資源の保全や活用について事例を通して学び、その重要性や可能性について理解を深めるとともに、施策や事業を企画する理論と手法を身につける。

尚、授業の進め方として、地域資源の保全・活用の最前線で活躍する方々をゲストに招き、実践者との対話から検討するとともに、先進事例に関する受講者の報告をもとに討論する時間を設けることとする。

授業の到達目標

①地域資源を活かした持続可能な地域づくりの理論と手法を理解する。
②京都府北部地域における地域資源の特性について理解する。
③地域資源の保全と活用の施策や事業を企画する際に必要な理論と手法を身につける。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	導入：本講義の進め方と地域資源論の全体像 ワークショップ：地域社会の魅力と課題を語ろう	
第 2 回	第１部：地域資源を理解するための理論	①地域資源の分類と地域社会
第 3 回	〃	②内発的発展論
第 4 回	〃	③地元学
第 5 回	第２部：地域資源活用の実践と手法	①文化的資源の活用１-歴史的資源と観光 （文化的景観、郷土芸能）
第 6 回	〃	②文化的資源の活用２-社会的資源と住民自治（ソーシャル・キャピタル）
第 7 回	〃	③自然資源の活用１-地域の自然エネルギー活用
第 8 回	〃	④自然資源の活用２-森・里・川・海のつながりを活かした事業
第 9 回	〃	⑤人的資源の活用-高齢者や主婦の知恵と経験を活かした事業
第 10 回	〃	⑥特産的資源の活用-山や海の恵みを活かした事業
第 11 回	第3部：先進事例の報告と討論	①観光・交流
第 12 回	〃	②福祉・地域づくり
第 13 回	〃	③移住・雇用促進
第 14 回	〃	④農・食・アート
第 15 回	まとめ：埋れし地域資源を社会とつなぐ　ワークショップ：活用のアイデアを語ろう	

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　（割合）	評価基準
クラスへの貢献（50%） 期末レポート（50%） 合計100点（100 %）	秀：適切な課題を設定し、独創的且つ実現性の高い課題解決策を提示できている。 優：適切な課題を設定し、すぐれた課題解決策を提示できている。 良：課題を設定し、一応の課題解決策を提示できている 可：課題設定と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。 不可：課題設定や解決策の提示が水準に達していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の実施する振り返りシートの内容について、次の講義の冒頭にフィードバックを行う。
講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	※特になし。授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	地域社会には埋もれし地域資源がたくさんあります。しかし、地元の住民はその魅力になかなか気づけません。学生の皆さんは「ヨソモン」≒「漂泊者」として地域に関わり、地域資源を発見し社会とつなぐ視点を持っています。地域資源の発見と活用を学び実践につないでいきましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	ワークショップ手法を活用した対話の場づくりの企画・運営に参画（京都市他）
備考 (note)	・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ・テーマに応じて3名ほど講師を招聘し現場最前線の実際を報告いただく予定である。 ・３分の１を超える欠席は、単位不可とする。	

科目名称				担当教員	
地方自治論				杉岡 秀紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

1993年の地方分権推進の決議から始まった地方分権の流れは、2000年の地方分権一括法の施行をもって結実したかに見える。確かにこの分権改革により、まさにこれまでの「官治・集権」の時代から、「自治・分権」の時代に入った。しかし、この分権改革とはいわゆる団体自治主導の分権の議論が主であり、我々はもっと住民自治主導の地方自治のあり方について議論をしなければならない。それが今日の中央集権的な地方創生への反省や解決策にも通じるヒントとなる。

そこで、本講義では地方自治の歴史や法における地方自治の理解から始まり、様々な地方自治を取り巻く多くのトピックを学習していく。

なお、講師は、行政（国）で働いた経験もあり、現在も国・広域自治体・基礎自治体様々な政策に深く関与している。そういった意味から机上の空論ではなく、現場から抽出されたエッセンスに照射して、講義を進める。

授業の到達目標

以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。
・グローバル化する世界と地域社会の関係を理解できる。
・対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。
・地域社会における様々な活動と、活動をになう主体との関係の実践的把握ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス（講義の概要、地方自治とは何か）
第 2 回	憲法と地方自治
第 3 回	団体自治と住民自治
第 4 回	地方分権と地域創生
第 5 回	道州制と特別地方公共団体
第 6 回	計画行政と総合計画
第 7 回	自治基本条例とは何か
第 8 回	二元代表制と議会改革
第 9 回	行政改革と行政経営
第 10 回	地方公務員と人材育成
第 11 回	新しい公共と協働
第 12 回	人口問題と地域コミュニティ、関係人口
第 13 回	事例研究①（基礎自治体）
第 14 回	事例研究②（広域自治体）
第 15 回	まとめ、ふりかえり

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
・シラバスで次回のテーマを確認し、参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
・講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。
（その他）
・またペアワークやグループワークはトピックなテーマを取り上げるため、ニュースや地元新聞に絶えずチェックしておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 （割合）	評価基準
出席点 （15%） 小レポート（15%） 授業態度・講義への貢献（10%） 期末レポート （60%）	秀：講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。 優：講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。 良：講義で習った概念を理解でき、他者に一部説明することができる。 可：講義で習った概念を最低限理解している。 不可：講義で習った概念を理解できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。

テキスト (Textbook)	【書名】 特になし 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	北村亘ほか『地方自治論』（有斐閣ストゥディア、2017）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書、2017）、真山達志・今川晃・井口貢『地域力再生と政策学』（ミネルヴァ書房、2010）、今川晃編『地域公共人材をつくる』（法律文化社、2013）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀・藤沢実『もうひとつの「自治体行革」』（京都政策研究センターブックレットvol.2）』（公人の友社、2014）、白石克孝・石田徹編『持続可能な地域実現と大学の役割』地域公共人材叢書第3期第1巻（日本評論社、2014）、今川晃編『地方自治を問いなおす』（法律文化社、2014）、杉岡秀紀編著『地域力再生とプロボノ（京都政策研究センターブックレットvol.3）』（公人の友社、2015）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『地域創生の最前線（京都政策研究センターブックレットvol.4）』（公人の友社、2016）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『「みんな」でつくる地域の未来（京都政策研究センターブックレットvol.5）』（公人の友社、2017）、杉岡秀紀ほか編『合併しなかった自治体の実際』（公人の友社、2018）

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	・本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブ・ラーニング）。 ・３分の１を超える欠席は、単位不可とする。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。 Eメール（sugioka-hidenori@fukuchiyama.ac.jp）に連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	公務員（内閣官房）、自治体の各種委員会・審議会委員、自治体職員研修ほか
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
財務諸表論				井上　直樹	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

財務諸表は、企業外部の利害関係者に対して会計情報を提供するために作成され、私たちが企業の経営状態などを知るために必要不可欠なものである。本講義では、企業が行っているさまざまな経済活動がどのように会計処理され、財務諸表上に表示されているかをその理論的背景について理解していくとともに、実際の財務諸表をもとにその分析方法についても学んでいく。
本講義では、企業の財務諸表を主な対象としているが、複式簿記にもとづく発生主義会計の考え方を理解することで、営利・非営利を問わず、各主体における財務会計上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、財務会計情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。

授業の到達目標

基本的な会計理論やわが国の会計制度について理解し、財務諸表の内容から企業の経営成績や財政状態を把握できる。上場企業等が開示している財務諸表を自らの目的に応じて利用できる。
財務諸表の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、ビジネス会計検定試験®を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンスと財務諸表の全体像
第 2 回	貸借対照表の構造と流動資産
第 3 回	固定資産と繰延資産
第 4 回	負債と純資産
第 5 回	損益計算書の構造と売上総利益
第 6 回	営業利益と経常利益
第 7 回	税引前当期純利益と当期純利益
第 8 回	キャッシュ・フロー計算書の構造
第 9 回	キャッシュ・フロー計算書の読み方
第 10 回	財務諸表分析の概要
第 11 回	百分比財務諸表分析と成長性分析
第 12 回	安全性分析
第 13 回	キャッシュ・フロー情報の利用と収益性分析
第 14 回	総合問題演習と解説
第 15 回	これまでの内容のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
授業ごとに前回授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。

(その他)
授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。

評価方法　(割合)	評価基準
期末試験(60%) 授業中の小テスト(30%) 授業態度(10%)	【秀：100点 - 90点】適切に会計の理論や制度を把握し、財務諸表から企業の経営成績や財政状態を理解できる。 【優：89点 - 80点】財務諸表から企業の経営成績や財政状態をよく理解している。 【良：79点 - 70点】財務諸表から企業の経営成績や財政状態を一応理解している。 【可：69点 - 60点】財務諸表による企業の経営成績や財政状態の理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。 【不可：59点 - 0点】財務諸表から企業の経営成績や財政状態を理解できていない。 【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。

テキスト (Textbook)	【書名】	ビジネス会計検定試験®公式テキスト3級	【著者】	大阪商工会議所
	【出版社】	中央経済社	【出版年】	2014年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	授業終了後、ビジネス会計検定試験®３級に合格することを目指してください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。	

科目名称				担当教員	
中小企業論				佐藤 充	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

中小企業は、日本経済を支える基盤であるとともに、地域経済を牽引するものである。我が国では、大企業の下請企業や地域商業の小売・サービス店だけではなく、高度な技術力や独創的なビジネスモデルを有する革新的中小企業が事業活動を展開している。さらに、新たな産業の担い手として、スタートアップ企業への期待も高まっているのである。

本講義は、中小企業の概念や仕組みを学習するとともに、中小企業の実態や経営課題について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域経済における中小企業の役割や問題点を議論・検討するものである。

※必要に応じて、ゲスト講師による講義を行う予定である。

授業の到達目標

① 日本経済における中小企業の役割を理解し、中小企業を取り巻く経済環境や中小企業の経営について説明することができるようになる。
② 中小企業が抱える諸問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション 日本経済と中小企業
第 2 回	中小企業とは
第 3 回	日本における中小企業の変遷
第 4 回	大企業と中小企業
第 5 回	下請システムと中小企業
第 6 回	グローバル化と中小企業
第 7 回	中小企業の事業承継
第 8 回	中小企業の研究開発活動とイノベーション
第 9 回	スタートアップ企業の経営と支援
第 10 回	中小企業と地域経済
第 11 回	中小企業のネットワーク化
第 12 回	情報化と中小企業
第 13 回	中小企業の資金調達
第 14 回	中小企業政策の展開
第 15 回	全体のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
各講義の最後に、次回までの小課題を指示する。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。

(その他)
ニュースや新聞記事等に目を通し、中小企業に関する時事問題について、自らの意見を考えること。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験	(60%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、すぐれた解決策を提示できる。
小課題	(30%)	優：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、解決策を提示できる。
講義での発言	(10%)	良：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点についておおよその説明ができ、一応の解決策を提示できる。 可：概念やフレームワークを理解し、事象の問題点について最低限の説明ができる。 不可：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点を説明できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。

テキスト (Textbook)	【書名】 中小企業・ベンチャー企業論【新版】 【著者】 植田浩史ほか 【出版社】 有斐閣コンパクト 【出版年】 2014年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜、講義内で紹介します。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	講義内容について復習をしてください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
多文化共生論				渋谷 節子・大谷 杏	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

グローバル化が進む現在、日本にも様々な形で多くの外国人が訪れるようになり、いかに多文化共生社会の実現は身近かつ喫緊の問題である。この授業はパートⅠとパートⅡから成り、パートⅠ（担当：渋谷節子）では、グローバル化が進む現代の世界において文化の多様性や異文化理解はいかなる意味を持つのか、現代の世界で起こっている様々な問題について文化という側面から考察し、多文化が共生する世界をいかに実現しうるかを考える。パートⅡ（担当：大谷杏）では、日本や京都府内、福知山周辺に暮らす外国人市民の現状や多文化への対応（日本語教室、放課後の学習教室、外国人コミュニティなど）について把握し、国内他地域や諸外国の取り組みから、自分自身が地域社会の多文化化にどのような貢献ができるのかを検討する。

授業の到達目標

（1）世界の文化の多様性について知識を得て、理解できる。
（2）異文化理解の意義とその難しさについて考察できる。
（3）多文化共生の実現について具体的に考えることができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション（渋谷、大谷）
第 2 回	文化について考える（渋谷）
第 3 回	地域の文化、日本の文化、世界の文化（渋谷）
第 4 回	文化相対主義とその課題（渋谷）
第 5 回	異文化理解という行為（渋谷）
第 6 回	世界の文化的問題（渋谷）
第 7 回	グローバリゼーションと文化（渋谷）
第 8 回	多文化共生の可能性（渋谷）
第 9 回	日本に暮らす定住外国人の状況と在留資格（大谷）
第 10 回	外国人住民と地域の支援①関東地方（大谷）
第 11 回	外国人住民と地域の支援②東海地方（大谷）
第 12 回	外国人住民と地域の支援③アメリカ合衆国（大谷）
第 13 回	アメリカ合衆国における多文化教育
第 14 回	外国人住民と地域の支援④フィンランド（大谷）
第 15 回	授業のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
与えられた課題文献を読んでおくこと

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業の内容とワークシートを振り返り、さらに学習しておくこと（渋谷）

（その他）
日頃から様々なメディアを通して授業に関する事柄への関心を高めておくこと、帰省した際などに地元の状況を調べておくこと（大谷）

成績評価の方法と基準(Gradig)

評価方法	(割合)	評価基準
授業への貢献 各授業のワークシート 期末レポート	(３０％) (１０％) (６０％)	秀：多文化共生について基本的な枠組みを理解し、具体的な事例を用いて自らの考察を行い、実践的な課題解決の方法を考えることができる。 優：多文化共生について基本的な枠組みを理解し、具体的な事例を用いて自らの考察を行うことができる。 良：多文化共生について基本的な枠組みを理解し、自らの考察をすることができる。 可：多文化共生について基本的な枠組みを理解している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート返却時にフィードバックを行う。

参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	岩崎正吾編著『多文化・多民族共生社会の世界の生涯学習』学文社、2018年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	高城玲編著『大学生のための異文化・国際理解』丸善出版、2017年

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)		
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
グローカル特別講義Ⅰ(北近畿の地域創生Ⅰ)				杉岡 秀紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

本学は「市民の大学、地域のための大学、世界と共に歩む大学」を標榜し、2016年４月に開学した。そして、京都府北部の５市２町、兵庫県北部の５市２町からなる北近畿地域を主たるフィールドの対象とし、地域の課題解決のために教育・研究・社会貢献を展開することとしている。

そこで、本講義においては、北近畿地域内の自治体からトップリーダーを含む第一線のキーパーソンをゲストスピーカーとしてお招き、それぞれの立場から地域創生の取り組みの現状と課題について話題提供いただく。なお、原則として前半約60分はゲスト講義、後半約30分は質疑応答を含む対話の機会を創造する。また、ゲスト講義回については北近畿地域連携センターの協力の下、広く一般に公開する。

なお、2018年度前学期開講グローカル特別講義Ⅲ（公共経営演習Ⅲ）を履修し、合格した学生は同様の内容となるため受講はできない。

授業の到達目標

公共を担う重要な主体である行政セクターの多様な役割や重要性、具体的な姿を理解する。
北近畿管内の地域創生の取り組みの状況を認識し、その課題を把握する能力を養う。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス（講義の概要と北近畿地域の概要など）、福知山市における地域創生の取り組み
第 2 回	舞鶴市における地域創生の取り組み
第 3 回	綾部市における地域創生の取り組み
第 4 回	京丹後市における地域創生の取り組み
第 5 回	宮津市における地域創生の取り組み
第 6 回	与謝野町における地域創生の取り組み
第 7 回	伊根町における地域創生の取り組み
第 8 回	ふりかえりワークショップ①
第 9 回	豊岡市における地域創生の取り組み
第 10 回	朝来市における地域創生の取り組み
第 11 回	養父市における地域創生の取り組み
第 12 回	丹波市における地域創生の取り組み
第 13 回	篠山市における地域創生の取り組み
第 14 回	ふりかえりワークショップ②
第 15 回	京都府における地域創生の取り組み、まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
予習：各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
復習：講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。

（その他）
日常的に新聞を読むなど広く社会の動きに関心を持ち、北近畿の公共政策に関わって関心や問題意識を高めること

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 (割合)	評価基準
出席点（15%） ふりかえりシート及び受講態度（25%） 期末レポート（60%）	秀：行政セクター及び民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘でき、かつ、問題解決の優れた政策を提示できる。 優：行政セクター及び民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘し、かつ、問題解決の適切な政策を提示できる。 良：行政セクター及び民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘できる 可：行政セクター及び民間セクターの役割と各分野の事業内容について、最低限の理解はできている。 不可：行政セクター及び民間セクターの役割と各分野の事業内容が説明できない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

基本的には講義の冒頭で行う。講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	※特になし。授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	公共政策や地域政策、地方自治に興味ある学生、将来公務員を志望する学生、北近畿地域内での就職や企業、活動を考えている学生に多く受講してもらいたい。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
グローカル特別講義Ⅰ(福祉行財政と福祉計画)				岡本 悦司	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修・ 聴講

授業の概要

社会保障は国家歳出の３分の１，社会保障給付費はGDPの20%を超えるほど，経済に占める社会保障の比重は増大しつつある。また社会保障経済は税や保険料を財源にする点で市場経済とは異なる。たとえば，ホテルも病院，老人ホームも多数の人を収容する点では同一だが，前者は100%利用者負担であるのに対して，後者はその大半が保険や公費から支払われる。こうした福祉の行財政の特徴を通常の財政学とは異なる視点から講義する。
国，自治体の視点だけでなく，家計(利用者)の視点も講義にとりいれる。
地方財政状況報告，福祉行政報告等をデータウェアハウス化して活用し，法律，理論だけでなくデータに基づく内容とする(データウェアハウスはネット又はグーグルクラスルーム等を通じて配布する)。
また講義の一部は福知山市ならびに市社会福祉協議会等の実務家によって行うことも予定している。

授業の到達目標

●福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割，国と地方の関係，財源，組織及び団体，専門職の役割を含む)について理解する
●福祉行財政の現状と持続可能性について理解する
●福祉計画の意義や目的，主体，方法，留意点について理解する
●地方財政状況報告，税務統計，福祉行政報告，介護保険事業状況報告等福祉行財政に関するデータを使いこなすことができる

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	国の役割(法定受託事務と自治事務)
第 2 回	都道府県の役割(福祉行政の広域的調整，事業者の指導監督)
第 3 回	市町村の役割(サービスの実施主体，国保・介護保険制度における保険者)
第 4 回	国と地方の関係(地方分権の推進)
第 5 回	福祉の財源(国，地方，保険料，民間)
第 6 回	福祉行政の組織及び団体(福祉事務所，児童相談所，身体・知的障害者更生相談所，婦人相談所，地域包括支援セ)
第 7 回	福祉行政における専門職(福祉事務所の現業員，査察指導員)，児童福祉司，身体・知的障害者福祉司
第 8 回	福祉行財政の動向(わが国財政の持続可能性)
第 9 回	行財政と利用者(個人)負担との経済分析
第 10 回	福祉計画の目的と住民参加(行政計画とは何か)
第 11 回	福祉行財政と福祉計画の関係(介護保険財政，福祉医療制度を例に)
第 12 回	福祉計画の例(福知山市地域福祉計画とその策定プロセス)
第 13 回	福祉計画の種類(地域福祉計画，老人保健福祉計画，介護保険事業計画，障害者福祉計画)
第 14 回	福祉計画の策定過程(問題分析と合意形成過程)
第 15 回	福祉計画の見直しと評価方法

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
テキストの該当箇所を精読する

(毎回の授業終丁後に行うべき復習)
講義で実演したデータウェアハウスをダウンロードし，実際に操作してみて理解する。

(その他)

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 (割合)	評価基準
期末レポート (100%) 講義内容ならびに講義中に提供したデータウェアハウスを実際に操作して各自の選択した課題について分析したレポートで評価を行う	データウェアハウスを十分に分析し講義内容を超える知見を含んでいる・・・秀 データウェアハウスを分析しほぼ講義レベルに準じる分析を行っている・・・優 データウェアハウスを活用し表やグラフを作成しているが独自の分析はない・・・良 データウェアハウスを活用できているが画面をそのままコピペしたのみ・・・可 データウェアハウスが全く活用できていない・・・不可

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

データウェアハウスの活用の説明上必要があればPC室で操作演習を行うこともあり

テキスト (Textbook)	【書名】 福祉行財政と福祉計画第5版		【著者】	社会福祉士養成講座編集委員会
	【出版社】	中央法規出版	【出版年】	2017
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	厚生の指標増刊「国民の福祉と介護の動向2018/19」(厚生労働統計協会)			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	本科目は学部共通科目なので，地域経営，医療福祉両学科とも受講可能。また2年生以上も受講可能	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	火～金はいつでも可(okamoto-etsuji@fukuchiyama.ac.jp)	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
政治学				富野 暉一郎	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
前学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

私たちは毎日さまざまな政治に関する報道や情報に接しています。現代社会では、あらゆる社会生活の局面で政治のあり方が問われていますが、私たち主権者はその政治に主体的に関わり、政治のあり方を変えていくことが求められています。この講義では政治への主体的参加の基礎となる知識を、民主主義という政治システムを軸に、現実に今社会で起きている政治現象を事例として取り上げながら考察します。講義の内容は、第二次世界大戦後の政治の変遷、選挙と政治権力、直接民主主義と間接民主主義、権力の分立、政党政治の意義、地方自治、政治参加の諸形態、などについて学びます。また毎回政治や地域に関する新聞記事のコピーを配布し、情報を批判的に読むことを学びます。

授業の到達目標

【知識・理解】①国民主権、市民主権の意味と成立過程を理解する。②市民の政治参加と民主主義の関係を理解する。
【技能】①異なる意見の共通点を形成するためコミュニケーション手法を操作できる。②報道や情報を批判的に分析・操作することができる。
【態度】多様な意見を調整し統合する過程で、多様性に対する配慮ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション（この講義で学ぶこと）
第 2 回	さまざまな政治形態、さまざまな政治のレベル
第 3 回	第二次世界大戦後の日本の政治課題
第 4 回	国家主権と国際社会
第 5 回	国家主権と国民主権
第 6 回	権力の抑制(憲法、三権分立、世論)
第 7 回	議院内閣制と大統領制
第 8 回	日本の地方政治の特徴
第 9 回	政党政治と市民社会
第 10 回	民主主義におけるリーダーシップ
第 11 回	政治と情報社会
第 12 回	グループ討議 I
第 13 回	グループ討議II
第 14 回	政治家との対話
第 15 回	人口減少時代における政治の役割

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
次回の講義について事前に予習課題を指示し、講義には予習した概要をＡ４の用紙に書いて提出する

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
①ミニッツペーパに講義に関する質問や疑問点又は感想などを書いて提出する。
②講義のテーマに沿って出された復習課題について事後学習した内容をＡ４の用紙に書いて提出する。（予習課題と同一用紙も可）

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
レポート(2回) 期末試験 予習・復習態度	(30 %) (50 %) (20 %)	秀：レポート・期末試験・予習復習のすべてにおいて、課された課題に的確に対応し論理的かつ広い視野で回答することができている。 優：レポート・予習復習に90%以上対応し、かつ課された課題に的確に対応し論理的に回答することができている。 良：レポート・予習復習に70%以上対応し、かつ課された課題に的確に対応し回答することができている。 可：レポート・予習復習に50%以上対応し、かつ課された課題に対応し回答することができている。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の講義で提出されるミニッツペーパーについては、次回の講義の冒頭で10分程度代表的な質問や疑問に答える。
またレポートについては、すべてのレポートにコメントを付して返還する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	『始めて学ぶ政治学』岡崎清輝・木村俊道編ミネルヴァ書房 2014

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	時事問題を中心に政治と政治学を生きいきと学べる入門講義をしたいと思います。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	Tel/Mail等により直接連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	市長を8年間務め、地方自治の国際的な会議の事務局や学術調査活動を行った。
備考 (note)	講義中私語は厳禁とし、必要に応じて退室を求めることがある。	

科目名称				担当教員	
経営戦略論				平野 真	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

経営戦略論は、企業間の競争が激化した戦後の国際化時代を背景に米国を中心に発展してきた。この授業では、ポジショニング・ビューとリソース・ベースド・ビューといったものを中心に戦略論の歴史や主な戦略論の考え方を学習し、基本的な考え方を理解した上で、実際の戦略づくりの練習を行う。また、戦略論を更に分野別に、事業戦略論、技術戦略論、マーケティング戦略論、ビジネスモデル戦略論、組織戦略論、財務戦略論の各論について解説し、現代企業の戦略論の立て方についての基本知識を学ぶ。なお授業の進め方は、学生の理解度に応じて多少の変更を行うことがある。

授業の到達目標

1)SWOT分析の考え方を理解し、実際にSWOT分析を活用して戦略を練ることができるようになる。2)現代企業の様々な戦略の立て方を理解し、自分の考えを述べられる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション、第一部経営戦略の基礎（1）経営戦略とは？
第 2 回	第一部経営戦略の基礎（1）経営学・戦略論の歴史
第 3 回	第一部経営戦略の基礎（2）ポジショニング・ビュー1
第 4 回	第一部経営戦略の基礎（3）ポジショニング・ビュー2
第 5 回	第一部経営戦略の基礎（4）リソース・ベースド・ビュー1
第 6 回	第一部経営戦略の基礎（5）リソース・ベースド・ビュー2
第 7 回	第一部経営戦略の基礎（6）SWOT分析1
第 8 回	第一部経営戦略の基礎（7）SWOT分析2
第 9 回	第一部のまとめ、筆記試験と解説
第 10 回	第二部戦略論各論（1）事業戦略論
第 11 回	第二部戦略論各論（2）技術戦略論
第 12 回	第二部戦略論各論（3）マーケティング戦略論
第 13 回	発表会（1）
第 14 回	発表会（2）
第 15 回	総復習とまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
頻繁に宿題がでるので、これを欠かさず行い提出することが大切である。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で特に重要なのは復習である。授業で学習した内容がよく理解できない場合や授業中に埋めるべきレジュメの空欄が埋められなかった場合は、必ず次回に質問して理解を深めるようにする。
（その他）
理論の理解を確認する中間発表会があるので、この準備をすることを通じ、忘れないうちに学習した知識を整理すること。また後半は自分自身でテーマを設定し学習していく。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
宿題や授業中の発言など	(20%)	秀：適切に問題点を指摘し、特筆すべき鋭い分析や考察ができ、現実的な解決策を提示できる 優：授業で学習したことを良く理解でき指摘した問題点に対し適切な解決策を提示できる 良：授業で学習した内容を基本的には理解でき、指摘した問題点に対し解決策を提示できる 可：授業内容の理解、問題点の指摘と解決策の提示が、最低限の水準を満たしている 不可：授業の内容が理解できておらず、問題点や解決策の提示ができない、あるいは3分の1を超えて欠席した
中間試験	(30%)	
研究発表	(30%)	
最終テストないしレポート	(20%)	

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

日常的に、レポートの結果については授業中にコメントしたりして対話型の授業とする。テストの結果や研究発表についても、授業の中で注意点やコメントを述べていく。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	経営能力開発センター編「経営学検定試験公式テキスト1」中央経済社（就職対策として、資格の取得に興味のある人に役立つ。）基本的には、講義のレジュメの中で、参考文献を紹介する。授業は配布資料を中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	経営戦略論は、企業経営にかかわらず、世の中での様々な事業の進め方、地域の活性化に重要な考え方を学ぶことができるので、どんな方面に進む人でも必要な基礎知識である。是非一緒に学習しましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
グローバルビジネス				平野 真	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

現代においては、企業も人も、グローバル化と無関係に生きていくことはもはやできません。また、現在の地域の問題の多くは、近年のグローバル化の中でおこってきた問題が多いのも事実です。国際環境の変化の中で、どのように企業を経営していくか、また人や社会も、どのように考え行動していくか、絶えず考え続けていかねばならないのです。授業では、前半、国際的な取引や企業経営の現実的な問題をビデオなどを見ながら具体的に事例に沿って考えていき、同時に必要な知識をまとめていきます。後半では、グローバル化した産業の問題点を中心に、企業のみならず地域社会の人々がグローバル化とどのように向き合い考えていく必要があるのか、世界全体が持続可能な発展を続けるにはどうしたらいいのかなどを考えていきます。なお授業の進め方や評価手法については、多少の変更を行うことがあります。

授業の到達目標

1)国際化に関係して企業が考えなければならない主要課題について説明し、具体的な対策を挙げることができる。2)国による企業経営の在り方の違いを例をあげて説明でき、グローバル社会の中で企業経営や海外活動をどのように考えていけばいいか、自分の考えを述べられる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション（授業の概要、評価の説明、グローバル化とは？）
第 2 回	第一部国際経営学の基礎(1)企業活動の国際化：イタリア、フェラガモ社の事例
第 3 回	第一部国際経営学の基礎(2)多国籍企業：レナウンの中国企業による買収事例
第 4 回	第一部国際経営学の基礎(3)グローバル化とローカル化：台湾の半導体企業の事例
第 5 回	第一部国際経営学の基礎(4)異文化問題：インドネシアの金融事業の事例
第 6 回	第一部国際経営学の基礎(5)海外生産と産業空洞化：タイの金型事業の事例
第 7 回	第一部国際経営学の基礎(6)国際マーケティング：海外で活躍する日本の若者の事例
第 8 回	第一部の復習とまとめ
第 9 回	中間テストによる学習の検証
第 10 回	第二部グローバル化の課題(1)グローバル社会の課題：「不都合な真実」の紹介
第 11 回	第二部グローバル化の課題(2)持続可能な発展への戦略：デンマークでの取材ほか
第 12 回	第二部グローバル化の課題(3)これからの世界と中国：中国での取材ほか
第 13 回	研究発表会
第 14 回	研究発表会
第 15 回	総復習とまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
学習はその人間が問題意識をもっているかどうかによって、吸収力に大きな差がつく。毎回、前回の復習をすると同時に、自分の中での問題意識をもとに、質問を用意することが重要である。また、ニュースなどによく目をとおし、世の中で起きていることに常に注意を払い、なぜそうしたことが起こっているのか原因を考え、授業で質問していくことである。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で特に重要なのは復習である。授業で学習した内容がよく理解できない場合や授業中に埋めるべきレジュメの空欄が埋められなかった場合は、必ず次回に質問して理解を深めるようにする。
（その他）
毎回、授業の前半でビデオを見ながら、質問に答えていく小テストがある。ここでしっかり自分の頭で考えることで、授業の後半の講義の内容がよくわかるようになる。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
小テスト 中間テスト 研究発表 最終テストないしレポート	(20%) (30%) (30%) (20%)	秀：適切に問題点を指摘し、特筆すべき鋭い分析や考察ができ、現実的な解決策を提示できる 優：授業で学習したことを良く理解でき指摘した問題点に対し適切な解決策を提示できる 良：授業で学習した内容を基本的には理解でき、指摘した問題点に対し解決策を提示できる 可：授業内容の理解、問題点の指摘と解決策の提示が、最低限の水準を満たしている 不可：授業の内容が理解できておらず、問題点や解決策の提示ができない、あるいは3分の1を超えて欠席した

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

日常的に、小テストの結果については授業中にコメントしたりして対話型の授業とする。テストの結果や研究発表についても、授業の中で注意点やコメントを述べていく。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	「現代グローバル経営要論」山下達哉、高井透著、同友館。ほかに講義のレジュメの中で、参考文献を紹介する。全体として授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	国際経営の知識はこれからの時代を生きていくあらゆる人に必要な基礎知識です。是非一緒に勉強しましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	米国にて米国法人を設立し約３年間営業や事業経営に関わる。
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
経営組織論				鄭 年皓	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

本講義では、経営組織をシステムとネットワークの観点で捉え、こうしたシステムとネットワークのアプローチに基づく多様な基礎理論と事例を紹介する。そこで、経営組織論の基本的な観点を紹介し、経営組織に関する多様な基礎理論を踏まえた上で、最近のグローバル化と情報化にともなう新たな経営組織を積極的に学習していく。

本講義の前半では従来より蓄積されてきた経営組織論の主要な学説を紹介し、後半では最近の経営組織論の成果を紹介する。また、経営組織の事例（日本企業と海外企業の事例）を多数紹介することによって、多様な基礎理論に対する理解を深めていく。これにより、経営組織に関する総合的・有機的視野の習得を目標とする。

授業の到達目標

経営組織に対する基礎的な理解を深める。
経営組織に関するニュースや報道、記事等の問題を、より深く理解する能力を身につける。
地域社会の多様な組織（営利組織と非営利組織の両方）に対して、経営組織論の観点で理解し分析する能力を身につける。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	組織をどのように捉えるか：組織に対するシステム思考
第 2 回	経営組織の基礎概念
第 3 回	経営組織の基本的な構造とデザイン
第 4 回	集権的組織と分権的組織
第 5 回	組織におけるコミュニケーション
第 6 回	組織における意思決定とコンセンサス
第 7 回	組織文化
第 8 回	環境適応と組織の成長
第 9 回	組織活性化
第 10 回	組織学習
第 11 回	組織変革とイノベーション
第 12 回	組織間ネットワーク
第 13 回	グローバル化と組織のダイバシティ
第 14 回	ICT（Information & Communication Technology）の進展と組織の行方
第 15 回	本講義の総まとめ，今後のさらなる学習について

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
講義で説明した専門用語を理解した上で、各テーマの全般的な論理展開を吟味し、講義で紹介した参考文献（書籍、新聞・雑誌の記事、インターネットの関連したサイト等）を精読してください。

（その他）
講義で学んだ多様な理論に鑑み、地域社会の組織（営利組織と非営利組織の両方）特性を経営組織論の観点で独自に考えてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
レポート課題（3回を予定） 授業内小テスト（2回を予定） 定期試験 合計	(30%) (20%) (50%) 100%	秀：多様な基礎理論を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開することができる。 優：基礎理論に対する理解度が高く、それを論理的に論じることができる。 良：基礎理論の内容を概ね理解している。 可：基礎理論に対する最低限の理解水準に達している。 不可：基礎理論に対する最低限の理解水準に達していない。 放棄：講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題 と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。

テキスト (Textbook)	指定しない。講義資料や文献については、必要に応じて講義中に配布・紹介する.
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	『コア・テキスト　マクロ組織論』、山田耕嗣 ・佐藤秀典、新世社、2014年 ＊その他の参考書については、適宜紹介する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	この講義を通して、経営組織の多様な観点を理解し、地域社会や国際社会の課題を組織的な観点（システム的な観点）で捉えていくことを期待します。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
グリーンツーリズム論				中尾　誠二	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

農山漁村の活性化策として取り組まれているグリーンツーリズムについて、その理念や背景について詳しく考察する。さらに、農林漁家民宿・農林水産物直売所・農山漁村レストラン・道の駅といった「グリーンツーリズム施設」や日本型ワーキングホリデー等「ソフト事業」の現状と課題を明らかにし、2003年以降に全国適用された旅館業法等の規制緩和によってもたらされた「農山漁村民泊」の新たな動き等を踏まえ、今後の展望を行う。

授業の到達目標

「地域経営」の視点から、グリーンツーリズムによる農山漁村振興の概要・各論を学び、政策的問題解決の基本的な考え方を身につける。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	はじめに
第 2 回	グリーンツーリズム・グリーンライフ・エコツーリズム
第 3 回	農林漁業・農山漁村の魅力
第 4 回	自然環境と農林漁業・農山漁村
第 5 回	農山漁村文化の発見・活用
第 6 回	農林漁業・農山漁村の多面的機能
第 7 回	グリーンツーリズムの企画と運営
第 8 回	クラインガルテン・市民農園
第 9 回	観光農園・オーナー制度
第 10 回	農林水産物直売所
第 11 回	農山漁村民泊・農林漁家民宿・農山漁村レストラン
第 12 回	公的交流施設（道の駅・農林漁業体験実習館・廃校活用施設）と指定管理者制度
第 13 回	農山漁村ワーキングホリデーとWWOOF
第 14 回	オーライ！ニッポン運動と教育旅行受入による農山漁村地域の活性化
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
① 授業前にテキストの該当部分を予め読んでおくこと。
② ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
① 授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。
② 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	（割合）	評価基準
期末試験	(40%)	秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。
講義ノート記載状況	(40%)	
受講態度	(20%)	

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義ノート記載状況を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】	グリーンライフ入門	【著者】	佐藤誠・篠原徹・山崎光博
	【出版社】	農山漁村文化協会	【出版年】	2005年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜紹介			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	指定時期までにテキストを入手しない場合は受講を認めない。また、講義後は毎回ノート提出を求めるため、バインダー（ルーズリーフ）方式のノートを推奨する。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
交流観光政策論				中尾 誠二	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

日本国内において「定住人口」の増加が難しくなった多くの地域で「交流人口」の増加を目指した取組が進められています。更に最近「関係人口」という新しい用語も使われるようになってきました。また、国は観光立国推進基本法等に基づく各種の政策を打ち出し、大都市圏・地方圏を問わず様々な地域振興策が推進されています。ただ、ここ数年の訪日外国人観光客急増等に起因する「観光公害」も指摘されるようになってきました。

そこで本科目では、観光を切り口とした地域振興策について幅広い視点を持ちつつも、一般的な観光では見過ごされてきた地域資源を活かした「交流型観光」に関する政策体系を重点的に講義します。

授業の到達目標

1）交流や観光に関する法体系や政策群について理解できるようになる。
2）交流型観光に関する地域資源を見出すことができるようになる。
3）地域資源を活かした交流型観光プランを策定することができるようになる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	交流観光政策とは？
第 2 回	観光政策の変遷1：明治から第二次世界大戦まで
第 3 回	観光政策の変遷2：戦後の復興と観光基本法の制定
第 4 回	観光政策の変遷3：経済大国日本と旅行時代の到来・発展
第 5 回	観光政策の変遷4：バブル崩壊と本格的な観光政策への取組
第 6 回	観光立国推進基本法
第 7 回	観光立国推進基本法によってもたらされた観光政策等
第 8 回	旅行業法
第 9 回	シェアリングエコノミー
第 10 回	旅館業法と住宅宿泊事業法
第 11 回	インバウンド観光と通訳案内士
第 12 回	エコツーリズム推進法とリゾート法
第 13 回	地域資源と外部経済
第 14 回	地域資源法と六次産業化・地産地消法
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
① ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
① 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。

(その他)

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験 講義ノート記載状況 受講態度	(40%) (40%) (20%)	秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義ノート記載状況を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	盛山正仁（著）『観光政策と観光立国推進基本法-第3版』ぎょうせい、2012年 ほか適宜紹介します。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	講義後は毎回ノート提出を求めるため、バインダー（ルーズリーフ）方式のノートを推奨する。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
診療情報管理特論				星 雅丈	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	聴講

授業の概要

医療機関で行われている疫学研究や医療統計・病院統計において、必要とされるのは単なるデータの処理手法や統計的分析手法だけではない。データの背景にある医療機関における各専門職者の役割や、情報の流れ、医療制度など診療情報管理士認定試験に向けての勉学の過程において培ってきた知識のすべてを動員して取り組む必要がある。

そこで本講義では、本学科卒の学生が医療機関に就職後、恐らく最も現場で期待される知識「医療統計学」の総復習と疫学研究手法の基礎を学修する。それに併せて、3年間かけて学んできた診療情報管理士認定試験に資する知識の総復習を行う。

授業の到達目標

1) 医療における統計学的手法の利用とその適用範囲について説明することができる。
2) 医療における診療情報の発生と流れ、および共有のあり方について説明することができる。
3) 医療制度における各種情報の利活用と管理について、説明することができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション	診療情報の管理と分析を学ぶ意義の再確認
第 2 回	医療統計学の復習	基本統計量、各種検定の手法、医療統計指標について
第 3 回	疫学研究方法Ⅰ	ケースコントロール研究・コホート研究について
第 4 回	疫学研究方法Ⅱ	各研究手法の欠点について
第 5 回	バイアスと交絡因子	バイアスと制御方法、生活の中に存在する交絡因子について
第 6 回	医療制度・組織・情報Ⅰ	医療・福祉専門職の役割と医療・福祉に関連する法制について
第 7 回	医療制度・組織・情報Ⅱ	医療機関における組織管理、施設管理、安全管理について
第 8 回	医療制度・組織・情報Ⅲ	医療における情報の管理と利活用、および各種統計指標について
第 9 回	医療制度・組織・情報Ⅳ	医療機関における診療情報管理について
第 10 回	基礎医学・臨床医学Ⅰ	人体の構造と機能、疾病の要因、各種感染症について
第 11 回	基礎医学・臨床医学Ⅱ	新生物、血液・免疫疾患、呼吸・循環器系疾患について
第 12 回	基礎医学・臨床医学Ⅲ	消化器、尿路生殖器、精神神経、皮膚筋骨格系疾患について
第 13 回	基礎医学・臨床医学Ⅳ	医学・医療の用語（英語による表現）について
第 14 回	国際疾病分類法Ⅰ	疾病分類と死因、国際的分類法について
第 15 回	国際疾病分類法Ⅱ	各種疾病の国際分類と退院時要約からの情報抽出・分類について

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
予習として下記に指定するテキストのページに一度目を通すことにより、より深い理解につながる。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
配布資料やノートと共に受講した範囲のテキストを読み直すこと。

(その他)

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
・期末試験	(80%)	秀： 疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識について、説明でき、模擬問題の作成も可能である。
・講義中の質疑への対応	(20%)	優： 疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識について、分かりやすく説明できる。
講義への参加姿勢		良： 疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識に関するキーワードについて述べられる。
		可： 疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識に関するキーワードを挙げることができる。
		不可： 上記の基準に達していない。
		放棄： 中間テスト・期末試験を受験しない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

期末試験の結果は、診療情報管理士認定試験に資する価値があるため、即座に採点し、各学生に返却する。

テキスト (Textbook)	【書名】 診療情報管理Ⅰ～Ⅳ 【著者】 日本病院会 【出版社】 株式会社日本病院共済会 【出版年】 2016・2017年度版
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	・診療情報管理士教育問題集：（社）日本病院会 （基礎課程、専門課程、疾病分類法）

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	当科目では、疫学研究の手法を学修すると共に診療情報管理士認定試験に資する知識の総復習を行うため、医療機関において今後期待される統計的分析手法の基礎を身につけ、さらに診療情報管理士認定試験の合格を目指したい者があれば、学外からの科目等履修・聴講も認めたい。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡、もしくは在室時に直接面談いたします。	
担当教員の実務経験	経験内容	医療機関にて5年間医療情報システム部門責任者を担当
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
地域協働論				杉岡 秀紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

地域を構成する主体は「産学公民金労言」と言われるように、実に多様であり、それぞれが地域と深く関わっている。一方、近年地域、とりわけ地域公共を取り巻く環境は、「新しい公共」と呼ばれるように、ますます地域課題が多様化・高度化・複雑化・専門化・不確実化する中で、もはや単独の主体だけでは課題解決できない時代に突入している。

そこで、本講義では、まず地域を構成するアクターやセクターごとにキーとなる概念について学んでいく。また、北近畿地域内外を問わず、第一線のゲストスピーカーの招聘による事例研究を通じ、現場の声にも触れていく。

なお、講師は、公共政策大学院修了後、行政、民間企業、NPO、大学など多様な職場で働いてきた経験を持つ。そういった意味から机上の空論ではなく、現場から抽出されたエッセンス、実際の社会で使えるスキルというものに照射して、講義を進める。

授業の到達目標

以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。
・グローバル化する世界と地域社会の関係を理解できる。
・対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。
・地域社会における様々な活動と、活動をになう主体との関係の実践的把握ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス（講義の概要、成績評価、協働とは何か）
第 2 回	地域協働と市民参加、コミュニティと協働
第 3 回	地域協働と法政策
第 4 回	地域協働と地域分権、地域創生
第 5 回	地域協働と新しい公共、パートナーシップ
第 6 回	地域協働とボランティア、サービス・ラーニング
第 7 回	地域協働とNPO、サードセクター
第 8 回	地域協働とコミュニティビジネス、ソーシャルビジネス
第 9 回	地域協働と人材育成（地域公共人材）
第 10 回	地域協働とソーシャルデザイン
第 11 回	地域協働とフューチャーセンター
第 12 回	地域協働の事例研究①（国）
第 13 回	地域協働の事例研究②（都道府県）
第 14 回	地域協働の事例研究③（市町村）
第 15 回	まとめ、ふりかえり

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
・シラバスで次回のテーマを確認し、参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
・講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。
（その他）
・またペアワークやグループワークはトピックなテーマを取り上げるため、ニュースや地元新聞に絶えずチェックしておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 (割合)	評価基準
出席点 (15%) 小レポート (15%) 授業態度・講義への貢献 (10%) 期末レポート (60%)	秀：講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。 優：講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。 良：講義で習った概念を理解でき、他者に一部説明することができる。 可：講義で習った概念を最低限理解している。 不可：講義で習った概念を理解できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。

テキスト (Textbook)	【書名】 特になし 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	佐藤徹『新説市民参加』（公人社、2005）、今川晃ほか『地域りょくを高めるこれからの協働』（第一法規、2005）真山達志・今川晃・井口貢『地域力再生と政策学』（ミネルヴァ書房、2010）、野村恭彦「フューチャーセンターをつくろう」（プレジデント社、2012）、今川晃編『地域公共人材をつくる』（法律文化社、2013）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀・藤沢実『もうひとつの「自治体行革」』（京都政策研究センターブックレットvol.2）』（公人の友社、2014）、白石克孝・石田徹編『持続可能な地域実現と大学の役割』地域公共人材叢書第3期第1巻（日本評論社、2014）、今川晃編『地方自治を問いなおす』（法律文化社、2014）、杉岡秀紀編著『地域力再生とプロボノ（京都政策研究センターブックレットvol.3）』（公人の友社、2015）、西條辰義『フューチャーデザイン』（勁草書房、2015）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『地域創生の最前線（京都政策研究センターブックレットvol.4）』（公人の友社、2016）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『「みんな」でつくる地域の未来（京都政策研究センターブックレットvol.5）』（公人の友社、2017）、杉岡秀紀ほか編『合併しなかった自治体の実際』（公人の友社、2018）

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	・本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブ・ラーニング）。 ・３分の１を超える欠席は、単位不可とする。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。 Eメール（sugioka-hidenori@fukuchiyama.ac.jp）に連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	公務員（内閣官房）、自治体の各種委員会・審議会委員、自治体職員研修ほか
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
地域産業論				佐藤　充	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

地域産業は地域の経済活動を支える基盤であり、地域経済の成長を生み出す原動力となる。それぞれの地域では、資源の賦存量や事業所の集積状況などによって特徴づけられる産業構造が形成され、域内ないし域外の市場に向けた財・サービスが生産されている。また、地域産業には、国内外での経済活動の影響を受けながらも、地域の特性に基づくイノベーションや新事業の創出が期待されている。

本講義は、地域産業の概念や仕組みを学習するとともに、地域産業の実態と課題について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域経済における地域産業の役割や問題点を議論・検討するものである。

※必要に応じて、ゲスト講師による講義を行う予定である。

授業の到達目標

① 地域経済における産業の役割を理解し、地域産業を取り巻く国内外の経済環境や地域産業の構造について説明することができるようになる。
② 地域産業が直面している諸問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション　グローバル化と地域経済・産業
第 2 回	日本の地域構造
第 3 回	地域経済の仕組み
第 4 回	地域経済の成長
第 5 回	地域間の交易
第 6 回	産業の立地
第 7 回	産業集積の形成要因
第 8 回	産業集積の構造
第 9 回	産業集積のタイプとその実態
第 10 回	知識経済と地域イノベーションの創出
第 11 回	地域産業と起業・スタートアップ企業
第 12 回	内発的発展と地域内産業連関
第 13 回	地域における創造産業
第 14 回	地域産業政策の展開
第 15 回	全体のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
各講義の最後に、次回までの小課題を指示する。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。

(その他)
ニュースや新聞記事等に目を通し、地域産業に関する時事問題について、自らの意見を考えること。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験 小課題 講義での発言	(60%) (30%) (10%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、すぐれた解決策を提示できる。 優：概念やフレームワークを適切に用いて、事象の問題点を、論理的かつ客観的に説明でき、解決策を提示できる。 良：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点についておおよその説明ができ、一応の解決策を提示できる。 可：概念やフレームワークを理解し、事象の問題点について最低限の説明ができる。 不可：概念やフレームワークを用いて、事象の問題点を説明できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。

テキスト (Textbook)	【書名】　なし　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜、講義内で紹介します。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	講義内容について復習をしてください。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	経験内容　－
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

科目名称				担当教員	
グローカル特別講義Ⅳ(北近畿の地域創生Ⅱ)				杉岡　秀紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

本学は「市民の大学、地域のための大学、世界と共に歩む大学」を標榜し、2016年４月に開学した。そして、京都府北部の５市２町、兵庫県北部の５市２町からなる北近畿地域を主たるフィールドの対象とし、地域の課題解決のために教育・研究・社会貢献を展開することとしている。

そこで、本講義においては、北近畿地域内の包括協定団体からトップリーダーを含む第一線のキーパーソンをゲストスピーカーとしてお招き、それぞれの立場から地域創生の取り組みの現状と課題について話題提供いただく。なお、原則として前半約60分はゲスト講義、後半約30分は質疑応答を含む対話の機会を創造する。また、ゲスト講義回については北近畿地域連携センターの協力の下、広く一般に公開する。

なお、2018年度前学期開講グローカル特別講義Ⅳ（公共経営演習Ⅳ）を履修し、合格した学生は同様の内容となるため受講はできない。

授業の到達目標

公共を担う重要な主体である行政セクターの多様な役割や重要性、具体的な姿を理解する。
北近畿管内の地域創生の取り組みの状況を認識し、その課題を把握する能力を養う。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス（講義の概要と北近畿地域の概要など）
第 2 回	京都工芸繊維大学福知山キャンパスにおける地域創生の取り組み
第 3 回	ふりかえりワークショップ①
第 4 回	三和地域協議会・大江まちづくり住民協議会・夜久野みらいまちづくり協議会における地域創生の取り組み
第 5 回	ふりかえりワークショップ②
第 6 回	京都信用金庫における地域創生の取り組み
第 7 回	ふりかえりワークショップ③
第 8 回	但馬信用金庫における地域創生の取り組み
第 9 回	ふりかえりワークショップ④
第 10 回	中間ふりかえり
第 11 回	海の京都DMOにおける地域創生の取り組み
第 12 回	ふりかえりワークショップ⑥
第 13 回	西日本旅客鉄道株式会社福知山支社おける地域創生の取り組み
第 14 回	ふりかえりワークショップ⑦
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
予習：各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
復習：講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。

（その他）
日常的に新聞を読むなど広く社会の動きに関心を持ち、北近畿の公共政策に関わって関心や問題意識を高めること

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　（割合）	評価基準
出席点（15%） ふりかえりシート及び受講態度（25%） 期末レポート（60%）	秀：民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘でき、かつ、問題解決の優れた政策を提示できる。 優：民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘し、かつ、問題解決の適切な政策を提示できる。 良：民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘できる 可：民間セクターの役割と各分野の事業内容について、最低限の理解はできている。 不可：民間セクターの役割と各分野の事業内容が説明できない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

基本的には講義の冒頭で行う。講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	※特になし。授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	公共政策や地域政策、地域経営に興味ある学生、将来北近畿地域内での就職や企業、活動を考えている学生に多く受講してもらいたい。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
情報処理論Ⅱ				山田　篤	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

現代社会ではあらゆる場面で情報処理技術が活用されており，人々は日常的に情報機器を使用するようになっている。本講義では，一般教養としてインターネットを中心とした情報処理技術の基礎的な側面について学び，それが実社会でどのように活用されているのかについて考える。情報処理の分野は日々変化しているが，現在の情報処理の基本的な仕組みを理解することで，情報処理技術の利用者として今後の様々な変化にも対応できる能力を身につける。そのため，本講義ではインターネットの仕組みや通信の方法，電子メールやWWWといった応用事例について基礎的な技術の概要を取り扱う。

授業の到達目標

基礎的な情報処理技術について理解することにより，その利用者として高度情報化社会で生きていくために必要な力を身につけることを目指して，以下の3点を到達目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みや通信のについて理解し，説明ができる。
(2) 電子メールやWWWの仕組みや動作について理解し，説明ができる。
(3) インターネット上のセキュリティについて説明ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	インターネット
第 3 回	データの伝送
第 4 回	通信理論の基礎
第 5 回	TCP/IPモデル
第 6 回	デファクトとデジュール
第 7 回	サービスプロバイダ
第 8 回	家庭内LANの構築
第 9 回	無線LAN
第 10 回	メールの仕組みと利用
第 11 回	WWWの仕組みと利用
第 12 回	インターネット上のセキュリティ
第 13 回	セキュリティ対策
第 14 回	インターネットの今後
第 15 回	まとめと展望

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
次の授業内容に対応する教科書の範囲を示すので，予め読んでおき，わからないところや疑問に思う点を書き出し，授業中に質問ができるように準備しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
対応する教科書の範囲をもう一度読み直して，わからなかった点や疑問点が解消されたか，確認をすること。解決していない点は仲間同士で話し合ったり，オフィスアワーを使って質問をすること。単に答えを求めるのではなく，自分がどう考えるかをきちんと説明できるようにすること。
(その他)
授業で取り上げた技術が，自分の身の回りでどのように使われているかについて考えてみる。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
課題 期末試験	(20%) (80%)	評価基準は次のとおり。 秀：講義で扱ったインターネット技術について内容を理解し，自分の言葉で説明できる。 優：講義で扱ったインターネット技術について内容を理解し，一般的な説明ができる。 良：講義で扱ったインターネット技術について，一部不正確だが大まかな説明ができる。 可：講義で扱ったインターネット技術の一部について，最低限の説明ができる。 不可：講義で扱ったインターネット技術について，説明ができない。 放棄：講義に3分の2以上出席という要件を満たしていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業時間内の課題については次の授業の冒頭でポイントと考え方を説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【出版社】	文系学生が学ぶ情報学 コロナ社	【著者】 【出版年】	大内　東　編 2012
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜授業時間内に提示			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	日常的に利用しているインターネットについて理解を深め，様々な課題への対応能力を涵養しましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	ウェブシステムの開発
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
地域農業システム論				矢口　芳生	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

貿易の自由化等経済のグローバル化の進展のなかで、日本農業はビジネス型の大規模農業の展開がみられるものの様々な問題も抱えている。農業の担い手は減少・高齢化し、多くは兼業農家や自給的農家となり、耕作放棄地が増大している。とくに中山間地域ではこうした状況が深刻で鳥獣被害も多く、集落は消滅しつつある。地域農業がビジネスとして展開し、諸問題を改善・解決し、そのための対策を早急に確立して地域農業をシステム化する必要がある。

講義では、農業とはどのような産業なのか、日本農業の現状と関連する制度・政策、食の安全、作目別の生産状況、持続可能な農業・地域農業のあり方、世界の食料と農業の状況や課題と展望、等について講じる。さらに農業の特質と役割、地域農業ビジネスの展開方向、地域農業のシステム化について考える。なお、「感想シート」により、授業の理解度と参加態度をみながら講義を進める。

授業の到達目標

世界・日本・地域の食料・農業・農村の状況を理解し、農業の特質を踏まえて、地域農業の方向性を考えられるように、次の点を到達目標にする（基礎知識の獲得と応用）。

1．日本と世界の食料・農業・農村の状況を理解し、関係する用語を用いて説明や文書作成ができるようにする。
2．工業（製造業）と農業の共通性と相違（農業の特質）を理解し、地域農業を把握し、説明・討議できるようにする。

授業計画(Course Schedule)

第　1 回	オリエンテーション　農業・農村とは何か（21世紀における農学の課題）
第　2 回	農業・農村とは何か（日本社会・経済のなかの農業）
第　3 回	農業生産の構成要素の現状（農業生産の構成要素）
第　4 回	農業生産の構成要素の現状（持続可能な農業とは何か）
第　5 回	稲作農業・園芸農業・畜産業
第　6 回	日本農政の戦後史
第　7 回	世界の食料事情と食料・農業貿易（グローバル化と食料危機）
第　8 回	世界の食料事情と食料・農業貿易（食料・農業ををめぐる諸問題）
第　9 回	地域農業のビジネス化・システム化（地域ミッションとビジネス）
第 10 回	地域農業のビジネス化・システム化（地域農業システム化の手順）
第 11 回	地域農業の活性化・システム化（農業所得向上への3つの方法）
第 12 回	地域農業の活性化・システム化（資源管理型農場制農業の構築）
第 13 回	地域農業の活性化・システム化（地産地消システムの構築）
第 14 回	地域農業の活性化・システム化（サービス農業の構築）
第 15 回	まとめ―現代社会における〈農〉の意義と役割

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。
自分が住んでいる地域の農家の人々と話す機会をつくってみましょう。

（その他）
食事の際は、世界や日本の食料事情、農業生産のあり方を考えてみてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

適宜「理解度試験」を実施（計15点）。 期末に試験を実施（85点）。 合計100点（100 %）	評価基準は次のとおり。 秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「理解度試験」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【出版社】	【著者】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	毎年の『食料・農業・農村白書』	

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	食料・農業・農村に関して関心をもつようになってください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
コミュニティビジネス				塩見　直紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

この授業は，国内外におけるコミュニティビジネス（社会起業も含）の現状と動向、手法、戦略等を先進例、若手ベンチャー、新しい潮流に学んでいく。地域資源活用、新しい組み合わせ、コンセプトメイク、ブランディング、情報発信等なども重要なキーワードとして、一般の企業経営においても応用可能な内容とし，考え方や方法の理解が深まるように事例紹介も含め講述する。自らがコミュニティビジネスをおこなう学生ベンチャーとして、福知山と地元（出身地）での２案、企画もおこなう。

授業の到達目標

・コミュニティビジネスの現状と課題について基本的な知識を修得する。
・コミュニティビジネスの経営センス、経営の在り方、戦略等を学ぶ。
・地域資源（地域資源創出）を活かしたコミュニティビジネスの独自戦略プランを立案できる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	コミュニティビジネス論の概要とめざす方向性について（オリエンテーション）、課題発表
第 2 回	コミュニティビジネスとは何か、社会起業（ソーシャルビジネス）とは何か
第 3 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：都市）
第 4 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：農村）
第 5 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：子育て）
第 6 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：食）
第 7 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：農）
第 8 回	コミュニティビジネス企画ワークショップ（個別プレゼンテーション準備）
第 9 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：貧困）
第 10 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：高齢者）
第 11 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：こころ、絆）
第 12 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：教育）
第 13 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：空き家）
第 14 回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：未来）、コミュニティビジネスベンチャー構想（プランニング）
第 15 回	課題提出と試験

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
・コミュニティビジネス（社会起業）について、日ごろから問題意識をもつこと。
・コミュニティビジネスを自分も立ち上げるという気概をもち、関連書を手にするなど、自己学習をおこなうこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
・1回目に出す課題について、復習をおこない、充実をはかる（最終日提出）

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　（割合）	評価基準
試験・課題（80%） 毎回の感想・気づき・提案シート（20%）	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、課題や独自の解決策を的確に指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、課題を理解し、解決策を提示できる 良：おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している 可：課題の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：課題が説明できていない 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

本授業では思考のアウトプット（感想シート）を重視し、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	参考書や資料等は適宜講義で提示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	地域課題をビジネス手法で解決する試みを学ぶことは今後、どの分野に行かれても役立つと思います。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
簿記論Ⅱ				井上　直樹	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

簿記は、企業等が行う様々な取引活動を効率的かつ体系的に記録し、ある時点での財政状態や一定期間の経営成績を明らかにするために必要とされるものである。
本講義では、複式簿記についての基礎的な知識や技術を修得し、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学んでいく。簿記論Ⅰを踏まえて授業を行うため、その内容を理解できていない者は、復習をしたうえで履修すること。
本講義では、小規模株式会社を主な対象としているが、複式簿記にもとづく発生主義会計の考え方を理解することで、営利・非営利を問わず、各主体における会計上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、適切かつ的確な会計情報の収集・分析に必要とされる基礎的技能の学修を目指す。

授業の到達目標

小規模株式会社を前提として、簿記論の前提となる貸借原理・帳簿組織の基礎知識を修得し、簿記一巡の流れを理解することができる。また、基本的な商業簿記を理解し、経理関係書類の適切な処理など、初歩的な実務がある程度できるための知識を修得する。
授業終了後、日商簿記検定３級程度の水準に到達することを目標とする。簿記の技術は自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、多くの問題を解く必要がある。

授業計画(Course Schedule)

第　1 回	ガイダンス、簿記論Ⅰの復習と証ひょう
第　2 回	商品売買と現金
第　3 回	普通預金、定期預金、当座預金、当座借越と小口現金
第　4 回	手形と記録債権(債務)と貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金
第　5 回	その他の債権債務と費用
第　6 回	貸倒れ・貸倒引当金と有形固定資産・減価償却
第　7 回	株式の発行、余剰金の配当・処分と法人税、消費税等
第　8 回	費用・収益の前払い、前受けと未払いと訂正仕訳
第　9 回	帳簿への記入と試算表
第 10 回	伝票と仕訳日計表
第 11 回	精算表と財務諸表
第 12 回	帳簿の締め切り
第 13 回	総合問題演習と解説(1)：前半の講義について
第 14 回	総合問題演習と解説(2)：後半の講義について
第 15 回	これまでの内容のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
授業ごとに前回授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。

(その他)
授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。

評価方法　(割合)	評価基準
期末試験(60%) 授業中の小テスト(30%) 授業態度(10%)	【秀：100点 - 90点】適切に簿記一巡の流れを把握し、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みをほぼ完全に理解できている。 【優：89点 - 80点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みをよく理解している。 【良：79点 - 70点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを一応理解している。 【可：69点 - 60点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みの理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。 【不可：59点 - 0点】簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解できていない。 【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　スッキリわかる 日商簿記3級　【著者】　滝澤ななみ 【出版社】　TAC出版　【出版年】　2019年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて、講義で配布するレジュメで指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	授業終了後、日商簿記検定３級に合格することを目指してください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。	

科目名称				担当教員	
社会調査論				佐藤　充	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

社会調査は、日々変化する社会がどのような状況にあるのかを明らかにし、また社会が直面する問題がいかなる要因によって生じているのかを検討するための有力なツールである。現代社会では、幅広い目的のもとで、大学のみならず行政や企業等により、さまざまな社会調査が実施されている。
本講義は、社会調査の基本的事項（社会調査の目的、歴史、方法論、調査倫理、各種調査の手法、収集データの分析など）を学習して、自らで調査を企画・実施し、収集したデータの分析を行うための基礎的な知識を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

① 社会調査の基本的な考え方を理解して、的確な方法で適切に調査を企画・実施し、収集したデータを分析できるようになる。
② 社会調査を実際に行うために必要となる調査倫理を身につける。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション　現代社会と社会調査
第 2 回	社会調査とは何か
第 3 回	社会調査の歴史
第 4 回	社会調査における倫理
第 5 回	社会調査の対象と方法
第 6 回	既存の資料・データ収集と活用
第 7 回	調査票調査の方法（1）　調査のプロセスと方法
第 8 回	調査票調査の方法（2）　調査票の設計
第 9 回	調査票調査の方法（3）　サンプリングの理論
第 10 回	調査票調査の方法（4）　調査票調査のデータ化作業
第 11 回	調査票調査の方法（5）　調査結果の分析
第 12 回	質的調査の方法（1）　調査のタイプと考え方
第 13 回	質的調査の方法（2）　インタビュー調査とフィールドワークの技法
第 14 回	質的調査の方法（3）　調査結果の分析
第 15 回	全体のまとめ　より良い調査を行うために

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
各講義の最後に、次回までの小課題と予習の範囲を指示する。
講義前には、小課題に取り組むとともに、教科書の指定された範囲を読むこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
配布資料とノートを読んで復習すること。

(その他)
ニュースや新聞記事等に目を通し、社会調査データの結果や解釈に注目しておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末レポート	(60%)	秀：概念やフレームワークを適切に用いて、論理的かつ客観的に優れた説明ができる。
小課題	(30%)	優：概念やフレームワークを適切に用いて、論理的かつ客観的に説明ができる。
講義での発言	(10%)	良：概念やフレームワークを用いて、おおよその説明ができる。
		可：概念やフレームワークを理解し、最低限の説明ができる。
		不可：概念やフレームワークが理解できず、説明ができない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。

テキスト (Textbook)	【書名】	新・社会調査へのアプローチ　論理と方法	【著者】	大谷信介ほか
	【出版社】	ミネルヴァ書房	【出版年】	2013年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜、講義中に紹介する。			

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	講義内容について復習をしてください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	各種の社会調査に従事。専門社会調査士を取得済み。
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
観光まちづくり論				谷口　知弘	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

地域社会は、少子高齢化や過疎化、ソーシャル・キャピタルの減退などによる住民自治機能の低下によって、従来担ってきた防災や教育、福祉、文化の継承など、様々な「まちづくり」活動の停滞や破綻の危機に直面している。
本講義「観光まちづくり論」では、これらの地域社会の問題解決の糸口を「観光」の視点を活かした「まちづくり」に求め、その理論と手法を実践の系譜と展開から講究する。
尚、授業の進め方として、観光まちづくりの最前線で活躍するキーパーソンをゲストに招き、実践者との対話から検討するとともに、先進事例に関する受講者の報告をもとに討論する時間を設けることとする。

授業の到達目標

①「観光」視点から取り組む持続可能なまちづくりの理論と手法を理解する。
②京都府北部地域における観光まちづくりの現状を把握し、課題と展望を議論することができる。
③地域資源を活用した観光まちづくりの新たな事業提案ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	導入：本講義の目的とプロセス ワークショップ「『観光』とは？自身の経験から考えよう」
第 2 回	第１部 「観光まちづくり」とは ①まちづくりの系譜と展開
第 3 回	②観光まちづくりの系譜と展開
第 4 回	❸理解を深めるワークショップ「観光×まちづくりの魅力と課題」
第 5 回	第２部 地域社会の課題と観光まちづくり ①教育・文化と観光まちづくり
第 6 回	②農業と観光まちづくり
第 7 回	③健康と観光まちづくり
第 8 回	④住民自治と観光まちづくり
第 9 回	❺理解を深めるワークショップ「地域社会の課題と観光まちづくりを考える」
第 10 回	第３部 北近畿における観光まちづくりの取り組み ①行政施策と観光まちづくり～福知山市の観光政策とまちづくり
第 11 回	②産学公民協働の観光まちづくり～プラットフォームとしての「海の京都DMO」
第 12 回	③市民活動と観光まちづくり～手づくり市による地域活性化
第 13 回	④企業活動と観光まちづくり～ゲストハウスを起点とした地域活性化
第 14 回	❺理解を深めるワークショップ「北近畿の地域資源を活用した観光まちづくりを考える」
第 15 回	まとめのワークショップ「観光まちづくりの課題と展望を語ろう」

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。
(毎回の授業終了後に行うべき復習)
講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　(割合)	評価基準
クラスへの貢献 (50%) 期末レポート (50%) 合計100点 (100 %)	秀：適切な課題を設定し、独創的且つ実現性の高い課題解決策を提示できている。 優：適切な課題を設定し、すぐれた課題解決策を提示できている。 良：課題を設定し、一応の課題解決策を提示できている 可：課題設定と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。 不可：課題設定や解決策の提示が水準に達していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の実施する振り返りシートの内容について、次の講義の冒頭にフィードバックを行う。
講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　特になし　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	講義で配布するレジュメで指示する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	「まちづくり」に「観光」を掛け算するとまちの見え方が変わってきます。「観光地づくり」から「観光地域づくり」へとまちづくりも観光も、その担い手は行政や専門家から市民へと変わってきました。市民主体の観光まちづくりを一緒に学び考えましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	Mail(taniguchi-tomohiro@fukuchiyama.ac.jp) へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	観光地域づくりの計画策定に参画 (岸和田市、久御山市) 福知山市観光地域づくりセンター戦略会議メンバー
備考 (note)	・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ・テーマに応じて3名ほど講師を招聘し現場最前線の実際を報告いただく予定である。 ・3分の1を超える欠席は、単位不可とする	

科目名称				担当教員	
交流居住論				塩見 直紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

日本の農山漁村の置かれている現状を踏まえ，都市農村交流や移住定住がもつ農村地域再生の可能性と現代的意義について学ぶ。特に「交流」のもつ可能性について力点を置く。 具体的な国内の事例（都道府県、市町村、企業、ＮＰＯ等）を中心に、先進的な取組みについて研究し、交流事業や定住促進事業、魅力的な地域づくり事業を企画する理論と手法を身につける。

授業の到達目標

・都市農村交流や移住の取り組みなどの現状と課題について基本的な知識を修得する。
・交流や定住促進を通じた地域振興策の概要を身につける。
・地域資源（地域資源創出）を活かした交流事業や定住促進の独自の企画を立案できる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	交流居住論の概要と目指す方向性について（オリエンテーション）、課題発表
第 2 回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(1)
第 3 回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(2)
第 4 回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(3)
第 5 回	日本の農村の現状と課題について
第 6 回	日本における旅の歴史（人はなぜ旅をするのか）
第 7 回	交流とは何か、交流の可能性とは
第 8 回	交流、定住促進等による地域再生に関するワークショップ（個別プレゼン準備）
第 9 回	現代の若者のローカル志向について
第 10 回	空き家対策について
第 11 回	地域資源を活かしたローカルビジネスの創造について
第 12 回	選ばれる農村とは
第 13 回	地域資源調査とブランディングと情報発信について
第 14 回	クリエイティブ人材の創造性発揮空間としての農村の可能性、個別プランニング（交流、定住促進、地域再生）
第 15 回	試験・課題提出

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
・観光、交流、移住、定住に関する情報や地域のあり方について、日ごろから問題意識をもつこと。
・新しい事業や世にない仕組みを自分が創出するという気概をもち、関連書を手にするなど、自己学習をおこなうこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
・1回目に出す課題について、復習をおこない、充実をはかる（最終日提出）

（その他）

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 (割合)	評価基準
試験・課題（80%） 毎回の感想・気づき・提案シート（20%）	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、課題や独自の解決策を的確に指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、課題を理解し、解決策を提示できる 良：おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している 可：課題の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：課題が説明できていない 放棄：講義に3分の2以上は出席していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

本授業では思考のアウトプット（感想シート）を重視し、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	毎講義のレジュメの中で、適宜、参考文献を紹介する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	どのような仕事に就いても今後、「交流」は重要なキーワードになります。交流の意味、可能性を考え、魅力的な地域を創るためには何が要るのか学んでいきましょう。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
公共経営入門				杉岡 秀紀	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

公共経営の現場では、産学公NPOのセクターの文化的・機能的な壁を越えて、地域の公共的活動や政策形成を主導、また、コーディネートできる人材が求められている。また、そのような人材には、公共マインドやビジネスマインド、知識のみならず、技法的な側面もますます重視されてきている。

そこで、本講義においては、まず公共経営の基礎について学ぶ。次に公共マーケティングについて、キーとなる概念の学習を毎回行い、米国の公共政策大学院でも導入されているケーススタディを通して現実的な公共課題へ適応し、模擬的に学習していく。

なお、講師は、公共政策大学院修了後、行政、民間企業、NPO、大学など多様な職場で働いてきた経験を持つ。また実際の自治体経営にも委員として携わっている。そういった意味から机上の空論ではなく、現場から抽出されたエッセンス、実際の社会で使えるスキルというものに照射して、講義を進める。

授業の到達目標

以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。
・対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。
・地域における複雑な課題群について、その解決に必要な要素の特定と解決のためのプログラムの提示及び適用ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンス（講義の概要、成績評価、公共経営について）
第 2 回	公共とは何か、NPMとは何か
第 3 回	公共経営とマーケティング思考
第 4 回	ケーススタディ（公共課題への適用：マーケティング思考）
第 5 回	公共経営とロジカルシンキング
第 6 回	ケーススタディ（公共課題への適用：ロジカルシンキング）
第 7 回	公共経営とクリエイティブ・シンキング
第 8 回	ケーススタディ（公共課題への適用：クリエイティブ・シンキング）
第 9 回	公共経営とクリティカル・シンキング
第 10 回	ケーススタディ（公共課題への適用：クリティカル・シンキング）
第 11 回	公共経営とロジカル・ライティング
第 12 回	ケーススタディ（公共課題への適用：ロジカル・ライティング）
第 13 回	公共経営とプレゼンテーション
第 14 回	ケーススタディ（公共課題への適用：プレゼンテーション）
第 15 回	ふりかえり、まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
・シラバスで次回のテーマを確認し、参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。
（毎回の授業終了後に行うべき復習）
・講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。
（その他）
・またペアワークやグループワークはトピックなテーマを取り上げるため、ニュースや地元新聞に絶えずチェックしておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法 （割合）	評価基準
出席点 （15%） 授業態度・講義への貢献（25%） 期末レポート （60%）	秀：講義で習った概念やスキルを体得し、自分の言葉で論理的かつ客観的に説明できる。また、課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。 優：講義で習った概念やスキルを体得し、自分の言葉で論理的かつ客観的に説明できる。また、課題点も指摘することができる。 良：講義で習った概念やスキルを理解でき、他者に一部説明することができる。 可：講義で習った概念やスキルを最低限理解している。 不可：講義で習った概念やスキルを理解できていない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。

テキスト (Textbook)	【書名】 特になし 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	ユージン・バーダック『政策立案の技法』（東洋経済新報社、2012）、川喜田二郎『発想法ー創造性開発のためにー』（中公新書、1967）、齋藤嘉則、株式グロービス監修『問題解決プロフェッショナルー思考と技術ー』（ダイヤモンド社、1997）、バーバラ・ミント、グロービス・マネジメント・インスティテュート監修、山崎康司訳『考える技術・書く技術ー問題解決力を伸ばすピラミッド原則ー』（ダイヤモンド社、1999）、トニー・ブザン／バリー・ブザン 著、神田昌典訳『ザ・マインドマップー脳の力を強化する思考技術ー』（ダイヤモンド社、2005）、細谷功『地頭力を鍛えるー問題解決に活かす「フェルミ推定」ー』（東洋経済新報社、2007）

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	・本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブ・ラーニング）。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。 Eメール（sugioka-hidenori@fukuchiyama.ac.jp）に連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	公務員（内閣官房）、自治体の各種委員会・審議会委員、自治体職員研修ほか
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
グルーカル特別講義Ⅱ（京都北部のまちづくり）				谷口　知弘	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

阪神淡路大震災を契機に行政セクターを補完する市民セクター（非営利市民活動組織）が大きな役割を担う力を有することが明らかとなった。加えて、近年は社会起業家やソーシャルビジネスへの注目が集っている。このように、社会課題の解決や未来創造において市民セクターや企業セクターの役割は大きい。そこで、市民セクター、企業セクターの現場からの報告に学び、特に福知山市を中心に京都北部の社会課題解決における民間の役割や課題、可能性を探求し議論する。

本講義においては、市民セクター、企業セクターからゲストスピーカーをお招きし、講義とワークショップを行う。

授業の到達目標

市民セクター、企業セクターの役割や課題、可能性について理解を深める。
福知山市を中心に北近畿においてマルチパートナーシップによる社会課題解決の現況を把握する。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	導入：講義概要と問題意識の共有	
第 2 回	第１部　市民セクターの活動	①若者キャリア教育
第 3 回	〃	②まちづくりの推進
第 4 回	〃	③アートと地域振興
第 5 回	〃	④デザインと地域振興-1
第 6 回	〃	⑤デザインと地域振興-1
第 7 回	〃	⑥地域社会とソーシャルビジネス-1
第 8 回	〃	⑦地域社会とソーシャルビジネス-2
第 9 回	〃	●学びを深めるワークショップ
第 10 回	第２部　企業セクターの活動	①若手経済人の社会参画-福知山青年会議所・知山商工会議所青年部
第 11 回	〃	②エンターテイメント事業と経営論
第 12 回	〃	③企業経営と女性活躍社会
第 13 回	〃	④高齢社会と企業活動
第 14 回	〃	⑤観光地域づくり
第 15 回	〃	●学びを深めるワークショップ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。

（その他）
日常的に新聞を読むなど広く社会の動きに関心を持ち、福知山市を中心に北近畿の市民活動や企業活動に関心と問題意識を持つこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　（割合）	評価基準
クラスへの貢献（50%） 期末レポート（50%）	秀：各分野の活動内容と各セクターの役割を理解して、問題点を的確に指摘でき、かつ、問題解決の優れた政策を提示できる。 優：各分野の活動内容と各セクターの役割を理解して、問題点を的確に指摘し、かつ、問題解決の適切な政策を提示できる。 良：各分野の活動内容と各セクターの役割を理解して、問題点を的確に指摘できる 可：各分野の活動内容と各セクターの役割について、最低限の理解はできている。 不可：各分野の活動内容と各セクターの役割について、説明できない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

基本的には講義の冒頭で行う。講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	※特になし。授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	福知山や北近畿で社会課題の解決に取り組む市民活動家や企業経営者をゲストに招き報告いただく。全国から集う学生のみなさんに、福知山や北近畿に関心を持ち理解を深める導入にしてほしい。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ・ゲストの都合により、変更がありうる。 ・3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする	

科目名称				担当教員	
経営工学概論				鄭 年皓	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

経営工学は、経営資源の4要素たる3M＋I（Man, Money, Material, Information）に対して、それを工学的・システム的に捉える文理融合の学問である。こうした経営工学の特性をふまえ、本講義では生産管理・財務管理・情報管理・意思決定論等、経営工学を構成する主要分野の基礎理論を解説する。

また、本講義では、複雑な経営事象をなるべく簡潔に把握するためのモデル化と、そこから得られる解決策（解）を経営の現場にフィードバックさせる基本的なアプローチを積極的に紹介していく。これにより、経営の多様で複雑な問題に対して、それをシステム的・ネットワーク的に捉えることができる総合的・有機的観点を習得していくことを目標とする。

授業の到達目標

経営の多様な問題をシステム的に理解する。
経営に関するニュースや報道、記事等に接したとき、それを経営工学的な観点で理解する能力を身につける。
経営工学の方法論を総合的・有機的に理解する。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	経営工学の概要：経営工学とは、経営工学の構成分野、システム的思考
第 2 回	生産管理とその機能
第 3 回	生産形態
第 4 回	生産計画
第 5 回	在庫管理
第 6 回	品質管理
第 7 回	MRP（Materials Reqirements Planning）システムとJIT（Just In Time）システム
第 8 回	SCM（Supply Chain Management）
第 9 回	プロジェクト管理
第 10 回	最適人員配置
第 11 回	線型計画法
第 12 回	経営分析
第 13 回	経営情報と意思決定法
第 14 回	経営データの分析と活用：多変量解析の考え方
第 15 回	経営工学の他のアプローチ、総まとめ、これからのさらなる学習について

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

（毎回の授業前に行うべき予習）
図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。
関連したテーマに対して、テキストを予め読んでください。

（毎回の授業終了後に行うべき復習）
講義で説明した専門用語を理解した上で、各テーマの全般的な論理展開を吟味し、テキストと講義で紹介した参考文献（書籍、新聞・雑誌の記事、インターネットの関連したサイト等）を精読してください。

（その他）
講義で学んだ多様な理論に鑑み、地域社会の活性化を経営工学的な観点で独自に考えてください。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
レポート課題（3回を予定） 授業内小テスト（2回を予定） 定期試験 合計	(30%) (20%) (50%) 100%	秀：多様な基礎理論を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開することができる。 優：基礎理論に対する理解度が高く、それを論理的に論じることができる。 良：基礎理論の内容を概ね理解している。 可：基礎理論に対する最低限の理解水準に達している。 不可：基礎理論に対する最低限の理解水準に達していない。 放棄：講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

レポート課題 と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。

テキスト (Textbook)	【書名】『バランシングの経営管理・経営戦略と生産システム』 【著者】鄭年皓・山下洋史 【出版社】文真堂 【出版年】2014
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	『入門ガイダンス 経営科学 経営工学』、古殿幸雄、中央経済社、2017年 ＊その他の参考書については、適宜紹介する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎		

メッセージ (message)	経営の問題と地域活性化の問題に対して、経営工学が目指している「文理融合的」アプローチで理解し解決していく人財になることを期待します。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
原価計算論				井上　直樹	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

原価計算の目的と仕組みを学修し、組織の経営実務で必要となる管理会計の基礎を学ぶ。原価計算の全体像を概観したのち、目的に応じて、個別分野ごとに具体的な原価計算の計算手法や特徴などを確認する。
本講義では、製造業における原価計算を主な対象としているが、営利・非営利、業種などを問わず、各主体における原価計算上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、製造原価情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。

授業の到達目標

原価計算の基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、原価計算の方法を修得する。その結果、製品やサービスの原価を正確に把握し、組織の生産性向上を目的とした施策を実施できる。
原価計算の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、日商原価計算初級検定試験を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	ガイダンスと原価計算の全体像
第 2 回	原価の概念と計算
第 3 回	原価の分類と損益計算
第 4 回	変動費と固定費
第 5 回	損益分岐点の売上高
第 6 回	予算実績差異分析
第 7 回	原価計算の流れ
第 8 回	材料費・労務費・経費
第 9 回	製造直接費と製造間接費
第 10 回	製造原価の計算
第 11 回	損益計算書の作成
第 12 回	原価計算で必要となる仕訳
第 13 回	総合問題演習と解説(1)：前半の講義について
第 14 回	総合問題演習と解説(2)：後半の講義について
第 15 回	これまでの内容のまとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
授業ごとに前回授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。

(その他)
授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　(割合)	評価基準
期末試験(60%) 授業中の小テスト(30%) 授業態度(10%)	【秀：100点 - 90点】適切に原価計算の基本用語や原価と利益の関係を把握し、原価計算の意義を理解したうえで計算ができる。 【優：89点 - 80点】原価計算の意義と計算方法をよく理解している。 【良：79点 - 70点】原価計算の意義と計算方法を一応理解している。 【可：69点 - 60点】原価計算の意義と計算方法の理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。 【不可：59点 - 0点】原価計算の意義と計算方法を理解できていない。 【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。

テキスト (Textbook)	【書名】 スッキリわかる日商原価計算 初級　【著者】 滝澤 ななみ 【出版社】 TAC出版　【出版年】 2018年
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	授業終了後、本学で実施予定の日商原価計算初級検定に合格することを目指してください。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。	

科目名称				担当教員	
グローカル特別講義Ⅱ（会計専門職を考える）				井上 直樹・三好 ゆう	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	1年次	講義	無	科目等履修

授業の概要

本科目の受講対象者は、会計・税務・財務関係への就職志望者である。
本科目の目的は、「どのような会計専門職があるか」、「会計や税金の知識が、将来どのように活かせるか」について、具体的に考えることを目的とする。ほとんど多くの学生は「会計・税を学ぶ」＝「会計士・税理士・国税専門官を目指す」という囚われたイメージをもっている。本科目は、そうした固定観念を払拭し、職業選択の幅を広げる機会を提供する。
授業方法は、(1)現在、現役で会計専門職（それに準じた職）に就いて働いている方々をお招きし、仕事内容の紹介・職に就いた経緯・各職業の魅力等を語ってもらい、(2)学生は、得た内容を次週の授業時間でワークショップ形式にて振り返りつつ、各職業における「地域との関わり」「社会貢献」への理解を深め、自らの職業理想像を固めていってもらう。

授業の到達目標

①会計専門職のイメージとギャップを埋め、会計・税の知識を活かした職の広がりを知り、自らの職業選択の幅を広げる
②志望する職業について、自分なりの理想像や仕事内容への魅力を固める
③目標達成までの期間（現時点から就職活動までの期間）に必要な学習準備が何かを理解し、学習計画を立てる

※会計専門職は試験を要するものが多く、十分な学習準備期間を設けるために、本科目は低学年のうちに受講すること

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション－会計専門職を志すにあたって－
第 2 回	テーマ①会計士のしごと：ゲスト（2名：会計事務所経営者、会計士）
第 3 回	〃 ：ワークショップ
第 4 回	テーマ②税理士のしごと：ゲスト（2名：税理士法人経営者、勤務税理士）
第 5 回	〃 ：ワークショップ
第 6 回	学習準備・学習計画について考える
第 7 回	テーマ③税務署のしごと：ゲスト（1名：福知山税務署長）
第 8 回	〃 ：ワークショップ
第 9 回	テーマ④自治体における税財務のしごと：ゲスト（1名：総務省）
第 10 回	〃 ：ワークショップ
第 11 回	テーマ⑤被災自治体における税財務のしごと：ゲスト（1名：綾部水道局）
第 12 回	〃 ：ワークショップ
第 13 回	テーマ⑥医療機関における財務のしごと：ゲスト（2名：社会福祉法人従事者、病院会計に携わる税理士）
第 14 回	〃 ：ワークショップ
第 15 回	総まとめ

ゲストの都合により、
テーマの順に変更あり

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
・会計、税務、財務に関連するニュースや新聞に目を通すこと

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
・得た知識を文献や資料、ニュース・新聞等で確認しておくこと

(その他)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験	(100 %)	秀：キーワードを用いて、説得力ある文章にて表現ができる
	(%)	優：キーワードを用いながら、概ね説明ができる
	(%)	良：キーワードを用いながら、ある程度は説明ができている
		可：最低限の説明ができている
		不可：文章による説明にて、内容が伝わらない

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学生の理解度を確認しつつ、ゲストの話を補完したり、ワークショップでの討論内容をフォローする。

テキスト (Textbook)	特になし
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	適宜、指示する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○	地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	会計・税に関心がある or 関連するゼミを志望する学生は受講しておくとよい	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
数学応用				神谷　達夫	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修生

授業の概要

この科目は、数学の知識を地域経営学に応用できるようにすることを目標としている。この科目では主に多変量解析の分野を取り扱う。重回帰分析や主成分分析、因子分析、分散分析、クラスター分析、ロジスティック回帰分析、サポートベクターマシンの基礎を学び、コンピュータ上での計算方法を学ぶ。 なお、講義の進捗状況により、重回帰分析以降の内容が変更される場合がある。

授業の到達目標

それぞれの手法の意味と計算方法を理解する。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	重回帰分析の基礎　重回帰分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第 2 回	重回帰式の求め方　重回帰式の求め方を学ぶ。簡単な重回帰式を求める計算を体験した後、コンピュータ上で重回帰式を求め、実用的な重回帰分析の方法を理解する。
第 3 回	重回帰式の評価　求めた重回帰式が妥当であるか検討する方法を学ぶ。分散分析と寄与率から、求められた重回帰式が妥当であるかどうかを検討する。
第 4 回	主成分分析の基礎　主成分分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第 5 回	主成分分析の方法　主成分分析の方法を学び、コンピュータ上での計算方法を理解する。
第 6 回	因子分析の基礎　因子分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第 7 回	因子分析の方法　因子分析の方法を学び、コンピュータ上での計算方法を理解する。主因子法、バリマックス回転の計算も体験する。
第 8 回	分散分析の基礎　分散分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第 9 回	分散分析の方法　分散分析の方法を学び、コンピュータ上での計算方法を理解する。
第 10 回	クラスター分析の基礎　クラスター分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第 11 回	クラスター分析の基礎　クラスター分析の方法を学び、コンピュータ上での計算方法を理解する。コンピュータを使い、デンドログラムを作成する。
第 12 回	ロジスティック回帰分析 ロジスティック回帰分析の基礎を学び、その意味を理解する。
第 13 回	ロジスティック回帰分析の応用 ロジスティック回帰分析によるカテゴリ予測を体験し、コンピュータ上で分析できるようになる。
第 14 回	サポートベクターマシン サポートベクターマシンとは何かを学び、計算の実例を見ることによりサポートベクターマシンの意味を理解する。
第 15 回	まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
講義の内容が高度であるため、必ず授業時間外に学習する必要がある。

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
ほぼ毎回、レポートの課題を出すため、レポートを書くことが必要である。レポートの内容が、復習の内容となっている。

(その他)
コンピュータ上で計算できるように自分専用のパーソナルコンピュータを用意することが望ましい。また、その用意したパーソナルコンピュータには、表計算ソフトウェア(Excelでよい)とソルバーが動作するように設定されていることが望ましい。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
期末試験 課題の提出	(80%) (20%)	秀：必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、問題点を的確に指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している 良：おおよその説明はできており、かつ、問題点を理解している 可：しくみや問題点の説明において、最低限の水準を満たしている 不可：しくみや問題点が説明できていない

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回、レポート課題を出します。解答は、授業内で説明します。また、個別の質問にも応じます。

テキスト (Textbook)	【書名】　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	多変量解析がわかる (ファーストブック), 技術評論社, 2011

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力, 基礎技術力を持つ人財	○	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し, 地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財			

メッセージ (message)	これまでの数学や統計学の授業を十分に理解した上で履修登録してください。また、表計算ソフトの基礎を理解してからの履修であることを強く勧めます。	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。	
担当教員の実務経験	経験内容	-
備考 (note)	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。	

科目名称				担当教員	
ソーシャルデザイン				谷口　知弘	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	3年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

ソーシャルデザインは、対話を大切にしたデザインプロセスから笑顔で暮らせる持続可能な地域社会を創る新しい理論と方法である。市民一人ひとりの多様な想像力と創造力を信じ育む未来創造のデザインプロセスを、事例から講究し体験的に学ぶ。
本講義においては、少子高齢化・人口縮小社会において危機的な問題状況におかれる「ローカル」の動きに注目する。ローカルで展開されるソーシャルデザインを通して、経済の物差しで幸せを測ってきた経済至上主義から脱皮し、家族やコミュニティ、平等性や精神性、自然環境と関わりなどを重視するオルタナティヴな物差しとしての「幸福度」についても検討する。

授業の到達目標

・「ソーシャルデザイン」の理論と方法について、その意味と価値を理解する。
・「ソーシャルデザイン」の考え方を援用した地域社会の問題解決や未来創造の提案ができる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	導入～ガイダンスと問題提起
第 2 回	第1部 「ソーシャルデザイン」とは ①まちづくりの系譜とソーシャルデザイン
第 3 回	②デザイン思考とソーシャルデザイン
第 4 回	❸理解を深めるワークショップ「ソーシャルデザイン×地域社会づくりの魅力と課題」
第 5 回	第2部 ソーシャルデザインの手法を学ぶ ①ソーシャルデザインとワークショップ-1～集合地とイノベーション
第 6 回	②ソーシャルデザインとワークショップ-2～対話とデザインプロセス
第 7 回	第3部 地域社会の課題とソーシャルデザイン ①教育・文化とソーシャルデザイン
第 8 回	②観光とソーシャルデザイン
第 9 回	③健康とソーシャルデザイン
第 10 回	④住民自治とソーシャルデザイン
第 11 回	❺理解を深めるワークショップ「地域社会の課題とソーシャルデザインを考える」
第 12 回	第4部 「ローカル」におけるソーシャルデザインの取り組み ①事例調査報告とディスカッション-1
第 13 回	②事例調査報告とディスカッション-2
第 14 回	③事例調査報告とディスカッション-3
第 15 回	❹理解を深めるワークショップ「ローカルとソーシャルデザインを考える」＋まとめ

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。
(毎回の授業終了後に行うべき復習)
講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。

成績評価の方法と基準(Grading)

評価方法　(割合)	評価基準
クラスへの貢献 (50%) 期末レポート (50%) 合計100点 (100 %)	秀：適切な課題を設定し、独創的且つ実現性の高い課題解決策を提示できている。 優：適切な課題を設定し、すぐれた課題解決策を提示できている。 良：課題を設定し、一応の課題解決策を提示できている 可：課題設定と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。 不可：課題設定や解決策の提示が水準に達していない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の実施する振り返りシートの内容について、次の講義の冒頭にフィードバックを行う。
講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。

テキスト (Textbook)	【書名】　特になし　【著者】 【出版社】　【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	講義で配布するレジュメで指示する

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財		診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	ソーシャルデザインは「社会的な課題の解決と同時に新たな価値を創出する画期的なしくみをつくること（「ソーシャルデザイン（グリーンズ/朝日出版社 2012）」を目指します。心躍るアイデアや楽しい実践がたくさん試みられています。「ソーシャル」×「デザイン」から何が生み出せるか、一緒に学び考えましょう。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	経験内容　ワークショップ手法を活用した対話の場づくりの企画・運営に参画（京都市他）
備考 (note)	・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ・テーマに応じて講師を招聘し現場最前線の実際を報告いただく予定である。 ・３分の１を超える欠席は、単位不可とする。

科目名称				担当教員	
行政学				富野 暉一郎	
開講学期	単位数	履修年次	授業形態	受講定員の有無	授業公開
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講

授業の概要

この講義は行政学の入門編です。現代の社会では、行政は私たちの生活の隅々まで浸透し、行政のあり方が私たちの人生に深い影響を与えています。行政は社会の中でどのような役割を持っているのか、その仕組みはどのようになっているのか、私たちの生活と行政はどのように関係しているのか、そして、私たちは主権者として行政にどのように関わっていくことが必要なのか、などをこの講義で考察していきたいと思います。講義では、実際に社会で起きている現象や事件などを、行政の視点から分析するほか、身近な行政である市役所を対象に、その業務を学びます。

授業の到達目標

【知識・理解】①日本の行政の特長について説明できる。 ②行政の社会的役割について歴史も含めて説明できる。
【技能】①社会の課題を分析するために、行政の情報を検索し使用できる。
【態度】①市民と行政との対話を円滑に進めることができる。②市民と行政との協働を企画しその事業に参加できる。

授業計画(Course Schedule)

第 1 回	イントロダクション この講義で学ぶこと
第 2 回	三権分立 政治と行政
第 3 回	議院内閣制の行政と二元代表制の行政
第 4 回	日本の行政の特徴
第 5 回	行政の仕組みI 国と地方自治体
第 6 回	行政の仕組みII 行政の組織・官僚制度
第 7 回	行政の仕組みIII 財政の仕組み
第 8 回	地方分権と地域社会の再生
第 9 回	行政と政策I
第 10 回	行政と政策II
第 11 回	協働型社会と地域経営
第 12 回	グループワークI
第 13 回	グループワークII
第 14 回	行政職員との対話
第 15 回	現代行政の課題

準備学習(予習・復習等)の内容とそれに必要な時間

(毎回の授業前に行うべき予習)
次回の講義について事前に予習課題を指示し、講義には予習した概要をＡ４の用紙に書いて提出する

(毎回の授業終了後に行うべき復習)
①ミニッツペーパに講義に関する質問や疑問点又は感想などを書いて提出する。
②講義のテーマに沿って出された復習課題について事後学習した内容をＡ４の用紙に書いて提出する。
(予習課題と同一用紙も可)

(その他)

成績評価の方法と基準 (Grading)

評価方法	(割合)	評価基準
レポート(2回) 期末試験 予習・復習態度	(30 %) (50 %) (20 %)	秀：レポート・期末試験・予習復習のすべてにおいて、課された課題に的確に対応し論理的かつ広い視野で回答することができている。 優：レポート・予習復習に90%以上対応し、かつ課された課題に的確に対応し論理的に回答することができている。 良：レポート・予習復習に70%以上対応し、かつ課された課題に的確に対応し回答することができている。 可：レポート・予習復習に50%以上対応し、かつ課された課題に対応し回答することができている。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の講義で提出されるミニッツペーパーについては、次回の講義の冒頭で10分程度代表的な質問や疑問に答える。
またレポートについては、すべてのレポートにコメントを付して返還する。

テキスト (Textbook)	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・参考資料等 (Supplementary Reading)	村松岐夫 『行政学教科書』 有斐閣 2011年

卒業認定・学位授与方針との関連

※◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力，基礎技術力を持つ人財	◎	診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域の現実のデータを収集・分析し，地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○		

メッセージ (message)	地域ごとに異なる条件を生かした地域づくりを共に学んでいきましょう	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	研究室前に掲示したTel/Mail等へ直接連絡もしくは在室時に直接面談。	
関連する実務経験	経験内容	市長を8年間務め、地方自治の国際的な会議の事務局や学術調査活動を行った。
備考 (note)	講義中私語は厳禁とし、必要に応じて退室を求めることがある。	